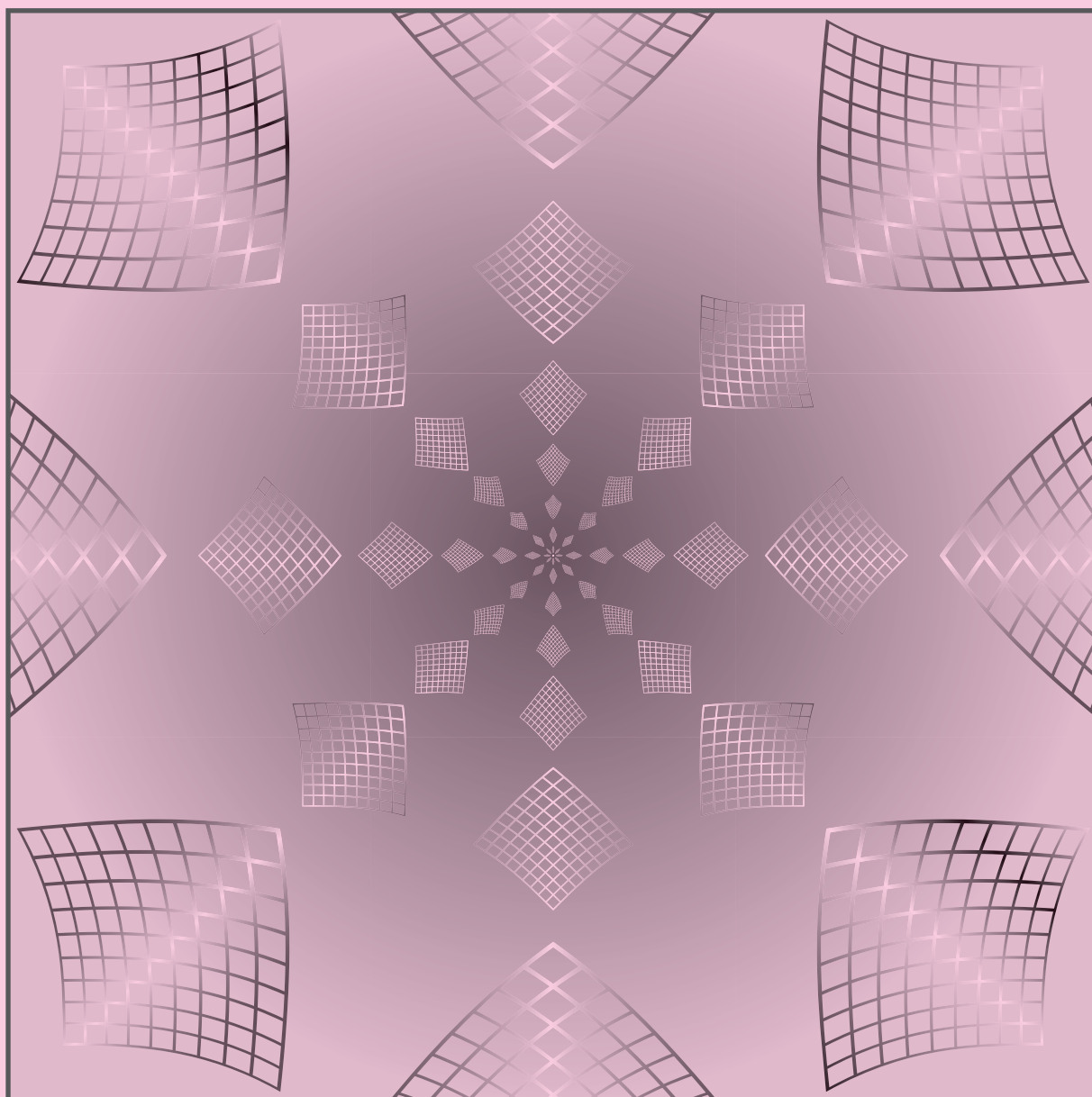

2011年度

シラバス ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

— 目 次 —

シラバスの見方	-----	2
ドイツ語学科授業科目（2009 年度以降入学生用）		
外国語科目、演習科目	-----	3
概論・専門講義・テキスト研究科目、交流文化論	-----	4
ドイツ語学科授業科目（2005 年度以降入学生用）		
学科基礎科目、学科共通科目	-----	6
学科専門科目 「Ⅰ 類部門」、 「Ⅱ 類部門」	-----	7
学科専門科目 「Ⅲ 類部門」、卒業論文	-----	8
外国語学部共通科目	-----	9
担当者別シラバス	-----	11

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. ドイツ語学科授業科目表について

①シラバスページの検索方法

ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

科目は、学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

全：ドイツ語学科以外の全学部学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以前……2008年度以前入学者

05年度以降……2005年度以降入学者

04年度以前……2003～2004年度入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄（上図③の部分）および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目もあります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

ドイツ語学科授業科目(2009～2011年度入学者用)

外国語科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	定員 レベル	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全		12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全		12
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		13
応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全		14
応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全		14
中級ドイツ語リーディング a	T. マイヤー	春	火1	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング b	T. マイヤー	秋	火1	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語ライティング a	P. ハインリヒ	春	火4	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング b	P. ハインリヒ	秋	火4	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング a	A. ヴェルナー	春	金2	1	2		B 25	18
中級ドイツ語ライティング b	A. ヴェルナー	秋	金2	1	2		B 25	18
中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング a	I. アルブレヒト	春	木1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語スピーキング b	I. アルブレヒト	秋	木1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語リスニング(GAL) a	能登 慶和	春	月4	1	2		B 25	21
中級ドイツ語リスニング(GAL) b	能登 慶和	秋	月4	1	2		B 25	21
中級ドイツ語リスニング(GAL) a	R. ザンドロック	春	金2	1	2		A 25	22
中級ドイツ語リスニング(GAL) b	R. ザンドロック	秋	金2	1	2		A 25	22
英語	M. J. クロフォード	春	木1	1	2		25	23
英語	M. J. クロフォード	秋	木1	1	2		25	23
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		2	3		既・A・B 35	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		2	3		既・A・B 35	24
上級ドイツ語リーディング a	H. H. ゲートケ	春	火4	2	3		35	25
上級ドイツ語リーディング b	H. H. ゲートケ	秋	火4	2	3		35	25
上級ドイツ語リーディング a	R. メッツィング	春	金2	2	3		35	26
上級ドイツ語リーディング b	R. メッツィング	秋	金2	2	3		35	26
上級ドイツ語ライティング a	S. ケルバー阿部	春	月2	2	3		35	27
上級ドイツ語ライティング b	S. ケルバー阿部	秋	月2	2	3		35	27
上級ドイツ語ライティング a	T. カーラー	春	火1	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング b	T. カーラー	秋	火1	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング a	H. J. トロル	春	金1	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング b	H. J. トロル	秋	金1	2	3		35	29
上級ドイツ語スピーキング a	S. ヴィーク	春	火2	2	3		35	30
上級ドイツ語スピーキング b	S. ヴィーク	秋	火2	2	3		35	30
上級ドイツ語スピーキング a	D. オルランド	春	木1	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング b	D. オルランド	秋	木1	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング a	T. マイヤー	春	木1	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング b	T. マイヤー	秋	木1	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング a	S. ケルバー阿部	春	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語スピーキング b	S. ケルバー阿部	秋	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語リスニング(GAL) a	D. オルランド	春	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(GAL) b	D. オルランド	秋	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(GAL) a	T. マイヤー	春	木2	2	3		35	35
上級ドイツ語リスニング(GAL) b	T. マイヤー	秋	木2	2	3		35	35
中世ドイツ語 a	I. アルブレヒト	春	火2	2	3			36
中世ドイツ語 b	I. アルブレヒト	秋	火2	2	3			36
ビジネスドイツ語 a	R. ザンドロック	春	月2	2	3			37
ビジネスドイツ語 b	R. ザンドロック	秋	月2	2	3			37
上級英語	辻田 麻里	春	金2	2	3		25	38
上級英語	辻田 麻里	秋	金2	2	3		25	38

演習科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	定員 レベル	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	金井 満	春	水3	2	1	全		39
ドイツ語圏入門Ⅱ	金井 満	秋	水3	2	1	全		39
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全		40
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全		40
通訳特殊演習	中山 純	春	金4	2	3		20	41
通訳特殊演習	中山 純	秋	金4	2	3		20	41
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	金3	2	3		20	42
インターンシップ特殊演習	古田 善文	春	木2	2	3		35	43
留学準備特殊演習	柿沼 義孝	春	金2	2	3		35	44
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	金3	2	3		35	45

概論・専門講義・テキスト研究科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	定員 レベル	ページ
ドイツ語概論 a	金井 満	春	木1	2	1	交		46
ドイツ語概論 b	金井 満	秋	木1	2	1	交		46
ドイツ語圏文学・思想概論 a	矢羽々 崇	春	火1	2	1	交		47
ドイツ語圏文学・思想概論 b	矢羽々 崇	秋	火1	2	1	交		47
ドイツ語圏の言語 a	柿沼 義孝	春	火2	2	2			48
ドイツ語圏の言語 b	柿沼 義孝	秋	火2	2	2			48
ドイツ語圏の文学 a	石丸 昭二	春	水3	2	2			49
ドイツ語圏の文学 b	石丸 昭二	秋	水3	2	2			49
ドイツ語圏の文学 a	渡部 重美	春	木3	2	2			50
ドイツ語圏の文学 b	渡部 重美	秋	木3	2	2			50
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月2	2	2			51
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月2	2	2			51
テキスト研究(語学・文学・思想) a	木内 基実	春	月4	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) b	木内 基実	秋	月4	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) a	P. ハインリヒ	春	火2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) b	P. ハインリヒ	秋	火2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) a	石丸 昭二	春	火3	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) b	石丸 昭二	秋	火3	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) a	A. ヴェルナー	春	水2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) b	A. ヴェルナー	秋	水2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木1	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木1	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) a	山口 祐子	春	木2	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) b	山口 祐子	秋	木2	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	上田 浩二	春	木2	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) b	上田 浩二	秋	木2	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) a	上田 浩二	春	木3	2	3		35	59
テキスト研究(語学・文学・思想) b	上田 浩二	秋	木3	2	3		35	59
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木4	2	1	交		60
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木4	2	1	交		60
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月2	2	2			61
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月2	2	2			61
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金3	2	2			62
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金3	2	2			62
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	金2	2	2			63
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	金2	2	2			63
ドイツ語圏のメディア文化 a	下川 浩	春	金5	2	2			64
ドイツ語圏のメディア文化 b	下川 浩	秋	金5	2	2			64
テキスト研究(芸術・文化) a	K. O. バイスヴェンガー	春	月4	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) b	K. O. バイスヴェンガー	秋	月4	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) a	山路 朝彦	春	火1	2	3		35	66
テキスト研究(芸術・文化) b	山路 朝彦	秋	火1	2	3		35	66
テキスト研究(芸術・文化) a	工藤 達也	春	火3	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) b	工藤 達也	秋	火3	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水2	2	3		35	68
テキスト研究(芸術・文化) b	木村 佐千子	秋	水2	2	3		35	68

概論・専門講義・テキスト研究科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	定員 レベル	ページ
テキスト研究(芸術・文化) a	飯沼 隆一	春	木1	2	3		35	69
テキスト研究(芸術・文化) b	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		35	69
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木2	2	3		35	70
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木2	2	3		35	70
テキスト研究(芸術・文化) a	中山 純	春	金3	2	3		35	71
テキスト研究(芸術・文化) b	中山 純	秋	金3	2	3		35	71
テキスト研究(芸術・文化) a	宮村 重徳	春	金3	2	3		35	72
テキスト研究(芸術・文化) b	宮村 重徳	秋	金3	2	3		35	72
ドイツ語圏現代社会概論 a	岡村 りら	春	火4	2	1			73
ドイツ語圏現代社会概論 b	岡村 りら	秋	火4	2	1			73
ドイツ語圏歴史概論 a	古田 善文	春	木5	2	1	交		74
ドイツ語圏歴史概論 b	古田 善文	秋	木5	2	1	交		74
ドイツ語圏の政治・経済 a	岡村 りら	春	木3	2	2			75
ドイツ語圏の政治・経済 b	岡村 りら	秋	木3	2	2			75
ドイツ語圏の歴史 a	黒田 多美子	春	火2	2	2			77
ドイツ語圏の歴史 b	黒田 多美子	秋	火2	2	2			77
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	飯嶋 曜子	春	火4	2	2			78
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	飯嶋 曜子	秋	火4	2	2			78
ドイツ語圏とEU a	飯嶋 曜子	春	火3	2	2	全	200	79
ドイツ語圏とEU b	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2	全	200	79
テキスト研究(現代社会・歴史) a	黒田 多美子	春	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) b	黒田 多美子	秋	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) a	永岡 敦	春	火3	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) b	永岡 敦	秋	火3	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) a	井村 行子	春	火4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	井村 行子	秋	火4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) a	J. シャルロート	春	水2	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) b	J. シャルロート	秋	水2	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	増谷 英樹	春	水4	2	3		35	84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	増谷 英樹	秋	水4	2	3		35	84
テキスト研究(現代社会・歴史) a	J. シャルロート	春	木1	2	3		35	85
テキスト研究(現代社会・歴史) b	J. シャルロート	秋	木1	2	3		35	85
テキスト研究(現代社会・歴史) a	辻本 勝好	春	金2	2	3		35	86
テキスト研究(現代社会・歴史) b	辻本 勝好	秋	金2	2	3		35	86

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(サステナブル・ツーリズム論)	北野 収	前期	月3	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	前期	火4	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	前期	水4	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(航空産業論)	山路 顕	前期	木2	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(開発文化論)	北野 収	前期	金1	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	前期	金2	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(食の文化論)	北野 収	前期	金3	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	前期	金5	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	後期	火4	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	後期	火5	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(ツーリズム政策論)	山路 顕	後期	火5	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	山路 顕	後期	木2	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	後期	金1	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	後期	金2	2	2	交・養・経・法	102
交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	後期	金2	2	2	交・養・経・法	103
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	後期	金3	2	2	交・養・経・法	104
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	後期	金5	2	2	交・養・経・法	105

ドイツ語学科授業科目(2005～2008年度入学者用)

学科基礎科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	11
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	13
ドイツ語LLⅠ	能登 慶和	春	月4	1	1		21
ドイツ語LLⅠ	R. ザンドロック	春	金2	1	1		22
ドイツ語LLⅡ	能登 慶和	秋	月4	1	1		21
ドイツ語LLⅡ	R. ザンドロック	秋	金2	1	1		22
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	12
基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	14
基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	14
ドイツ語圏入門Ⅰ	金井 満	春	水3	2	1	全	39
ドイツ語圏入門Ⅱ	金井 満	秋	水3	2	1	全	39
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	40
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	40

学科共通科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		1	3	全	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		1	3	全	24
上級ドイツ語(時事)	H. H. ゲートケ	春	火4	2	3		25
上級ドイツ語(時事)	H. H. ゲートケ	秋	火4	2	3		25
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	春	金2	2	3		26
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	秋	金2	2	3		26
上級ドイツ語(会話)	S. ヴィーク	春	火2	2	3		30
上級ドイツ語(会話)	S. ヴィーク	秋	火2	2	3		30
上級ドイツ語(会話)	D. オルランド	春	木1	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	D. オルランド	秋	木1	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	T. マイヤー	春	木1	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	T. マイヤー	秋	木1	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	S. ケルバー阿部	春	金2	2	3		33
上級ドイツ語(会話)	S. ケルバー阿部	秋	金2	2	3		33
上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー阿部	春	月2	2	3		27
上級ドイツ語(作文)	S. ケルバー阿部	秋	月2	2	3		27
上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	春	火1	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	秋	火1	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	春	金1	2	3		29
上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	秋	金1	2	3		29
中世ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	火2	2	3		36
中世ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	火2	2	3		36
通訳特殊演習Ⅰ	中山 純	春	金4	2	3		41
通訳特殊演習Ⅱ	中山 純	秋	金4	2	3		41

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語学概論Ⅰ	金井 満	春	木1	2	1		46
ドイツ語学概論Ⅱ	金井 満	秋	木1	2	1		46
ドイツ文学概論Ⅰ	矢羽々 崇	春	火1	2	1		47
ドイツ文学概論Ⅱ	矢羽々 崇	秋	火1	2	1		47
ドイツ語学各論Ⅰ	柿沼 義孝	春	火2	2	2		48
ドイツ語学各論Ⅱ	柿沼 義孝	秋	火2	2	2		48
ドイツ文学各論Ⅰ	石丸 昭二	春	水3	2	2		49
ドイツ文学各論Ⅱ	石丸 昭二	秋	水3	2	2		49
ドイツ文学各論Ⅰ	渡部 重美	春	木3	2	2		50
ドイツ文学各論Ⅱ	渡部 重美	秋	木3	2	2		50
ドイツ語講読(語学)	木内 基実	春	月4	2	3		52
ドイツ語講読(語学)	木内 基実	秋	月4	2	3		52
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	春	火2	2	3		53
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	秋	火2	2	3		53
ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	春	水2	2	3		55
ドイツ語講読(語学)	A. ヴェルナー	秋	水2	2	3		55
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木1	2	3		56
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木1	2	3		56
ドイツ語講読(文学)	山口 祐子	春	木2	2	3		57
ドイツ語講読(文学)	山口 祐子	秋	木2	2	3		57
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	春	木3	2	3		59
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	秋	木3	2	3		59

「Ⅱ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	春	木4	2	1		60
ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	秋	木4	2	1		60
ドイツの思想Ⅰ	工藤 達也	春	月2	2	2		51
ドイツの思想Ⅱ	工藤 達也	秋	月2	2	2		51
ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	春	金3	2	2		62
ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	秋	金3	2	2		62
ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	春	月2	2	2		61
ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	秋	月2	2	2		61
ドイツの演劇Ⅰ	上田 浩二	春	金2	2	2		63
ドイツの演劇Ⅱ	上田 浩二	秋	金2	2	2		63
ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	春	金5	2	2		64
ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	秋	金5	2	2		64
ドイツ語講読(思想)	石丸 昭二	春	火3	2	3		54
ドイツ語講読(思想)	石丸 昭二	秋	火3	2	3		54
ドイツ語講読(思想)	上田 浩二	春	木2	2	3		58
ドイツ語講読(思想)	上田 浩二	秋	木2	2	3		58

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	春	月4	2	3		65
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	秋	月4	2	3		65
ドイツ語講読(芸術)	山路 朝彦	春	火1	2	3		66
ドイツ語講読(芸術)	山路 朝彦	秋	火1	2	3		66
ドイツ語講読(芸術)	工藤 達也	春	火3	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	工藤 達也	秋	火3	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	春	水2	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	秋	水2	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木1	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	春	木2	2	3		70
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	秋	木2	2	3		70
ドイツ語講読(芸術)	中山 純	春	金3	2	3		71
ドイツ語講読(芸術)	中山 純	秋	金3	2	3		71
ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	春	金3	2	3		72
ドイツ語講読(芸術)	宮村 重徳	秋	金3	2	3		72

「Ⅲ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ史概論Ⅰ	古田 善文	春	木5	2	1		74
ドイツ史概論Ⅱ	古田 善文	秋	木5	2	1		74
ドイツの歴史Ⅰ	黒田 多美子	春	火2	2	2		77
ドイツの歴史Ⅱ	黒田 多美子	秋	火2	2	2		77
ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火4	2	2		78
ドイツの地誌・民俗Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火4	2	2		78
ドイツの政治・対外関係Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火3	2	2	全	79
ドイツの政治・対外関係Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火3	2	2	全	79
ドイツの経済Ⅰ	岡村 りら	春	木3	2	2		75
ドイツの経済Ⅱ	岡村 りら	秋	木3	2	2		75
ドイツの法律Ⅱ	宗田 貴行	秋	木3	2	2	法	76
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	火3	2	3		80
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	秋	火3	2	3		80
ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	春	火4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	秋	火4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	J. シャルロート	春	木1	2	3		85
ドイツ語講読(歴史)	J. シャルロート	秋	木1	2	3		85
ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	春	火3	2	3		81
ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	秋	火3	2	3		81
ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	春	水2	2	3		83
ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	秋	水2	2	3		83
ドイツ語講読(社会)	増谷 英樹	春	水4	2	3		84
ドイツ語講読(社会)	増谷 英樹	秋	水4	2	3		84
ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	春	金2	2	3		86
ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	秋	金2	2	3		86
卒業論文	黒田 多美子	通年	水3	8	4		87

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水1	2	1	養・経・法	107
総合講座	廣田 愛理	秋	水1	2	1	養・経・法	107
総合講座	工藤 達也	春	水3	2	1	養・経・法	108
総合講座	飯嶋 曜子	秋	水3	2	1	養・経・法	108
情報科学概論a	黄 海湘	春	水2	2	1	養・経・法	109
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						110～112
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	火1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	火1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						113～116
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	火2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	火2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	火3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	火3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	養・経・法	117
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	養・経・法	118
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	養・経・法	117
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	養・経・法	118
(HTML)情報科学各論	各担当教員						119
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	120
経済原論a	野村 容康	春	水2	2	1	養・経・法	121
経済原論b	野村 容康	秋	水2	2	1	養・経・法	121
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

ドイツ語学科科目シラバス

05 年度以降	総合ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 1～7 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 8～14 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 III	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. } 2. 3. 4. 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 1～7 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. 11. 12. 13. 14. 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 IV	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. } 2. 3. 4. 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 8～14 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. 11. 12. 13. 14. 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V（選択必修）へ進めません。	

05 年度以降	基礎ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～10 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス>初回授業時に指示		<未習クラス>学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス>初回授業時に指示	

05 年度以降	基礎ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 11～20 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス>初回授業時に指示		<未習クラス>学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス>初回授業時に指示	

09 年度以降 08 年度以前	応用ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、すでに基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱを修得済みの学生を対象に、ドイツ語の基礎能力のうち、読解と作文の能力のさらなる発展を目指します。 中級にレベルアップするためには、辞書をていねいに引く能力が求められます。そのためにも、授業に参加する際は、必ず予習を行うことが望まれます。また、適宜小テストを行うので、復習することも大切です。 授業時間外での学習はもちろん、出席についても期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席するようにしてください。 詳しいことについては、最初の授業時間に説明します。必ず出席してください。		第1回の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で指示します。 参考文献例： 清野智昭『中級ドイツ語のしくみ』白水社、2008年 中島・朝倉・平尾『必携ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年		小テストおよび学期末試験（出席による受験制限があります）	

09 年度以降 08 年度以前	応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅳ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、すでに応用ドイツ語Ⅰを修得済みの学生を対象に、ドイツ語の基礎能力のうち、春学期に続いて読解と作文の能力のさらなる発展を目指します。 中級にレベルアップするためには、辞書をていねいに引く能力が求められます。そのためにも、授業に参加する際は、必ず予習を行うことが望まれます。また、適宜小テストを行うので、復習することも大切です。 授業時間外での学習はもちろん、出席についても期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）にも関係しますので、できる限り毎回授業に出席するようにしてください。 詳しいことについては、最初の授業時間に説明します。必ず出席してください。		第1回の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で指示します。		小テストおよび学期末試験（出席による受験制限があります）	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des zweiten Studienjahres. Gelesen werden verschiedene Texte, die ungefähr dem Niveau A1 entsprechen. Dabei sind Themenwünsche und -vorschläge der Studenten willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel des Kurses ist nicht nur das Einüben von korrekter Aussprache, Intonation und Prosodie, sondern auch die Vermittlung diverser Lese- und Textbearbeitungstechniken. 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien der einzelnen Texte werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie (mindestens) einem Textvortrag zusammensetzen.	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des zweiten Studienjahres. Gelesen werden verschiedene Texte, die ungefähr dem Niveau A1 entsprechen. Dabei sind Themenwünsche und -vorschläge der Studenten willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel des Kurses ist nicht nur das Einüben von korrekter Aussprache, Intonation und Prosodie, sondern auch die Vermittlung diverser Lese- und Textbearbeitungstechniken. 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien der einzelnen Texte werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie (mindestens) einem Textvortrag zusammensetzen.	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1: Kennenlernen 2-5: Freizeit und Hobby 6-9: Wohnen und Leben 10-12: deutsche Städte 13-15: Berufe	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme; Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1: Kennenlernen 2-5: Essen und Trinken 6-9: Mode und Einkaufen 10-12: Sport 13-15: Zeit	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung werden in Gruppenarbeit Texte geschrieben und anschließend gemeinsam besprochen. Im Wesentlichen handelt es sich dabei um zwei verschiedene Arten von Texten. Zunächst werden Beschreibungen von deutschen Brauchtümern, Festen und Traditionen auf Grundlage von Bildern oder kurzen Videos eingeübt. Dabei werden neben sprachlichen auch inhaltliche Aspekte diskutiert. In der zweiten Semesterhälfte werden dann konkrete Texttypen wie Dankschreiben, Bewerbungen, Grußkarten etc. geschrieben und geübt. Am Ende der Veranstaltungen sollen Teilnehmer in der Lage sein, besser zwischen verschiedenen Texttypen und Stilebenen zu unterscheiden. Daneben werden auch landeskundliche Kenntnisse erweitert und vertieft. Ich freue mich schon darauf, Ihre Texte mit Ihnen zu besprechen und zu diskutieren.		1. Einführung in die Veranstaltung 2. Region I 3. Region II 4. Übergänge und Riten I 5. Übergänge und Riten II 6. Jahreszeiten I 7. Jahreszeiten II 8. Kultur I 9. Kultur II 10. Bewerbung und Lebenslauf 11. Dankschreiben 12. Grußkarten 13. E-mails 14. Schriftliche Vorstellung der eigenen Person 15. Zusammenfassung der Lernerfolge 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine		Teilnahme Aktive Mitarbeit Klausur am Semesterende	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung werden in Gruppenarbeit Texte geschrieben und anschließend gemeinsam besprochen. Im Wesentlichen handelt es sich dabei um zwei verschiedene Arten von Texten. Zunächst werden Beschreibungen von deutschen Brauchtümern, Festen und Traditionen auf Grundlage von Bildern oder kurzen Videos eingeübt. Dabei werden neben sprachlichen auch inhaltliche Aspekte diskutiert. In der zweiten Semesterhälfte werden dann konkrete Texttypen wie Dankschreiben, Bewerbungen, Grußkarten etc. geschrieben und geübt. Am Ende der Veranstaltungen sollen Teilnehmer in der Lage sein, besser zwischen verschiedenen Texttypen und Stilebenen zu unterscheiden. Daneben werden auch landeskundliche Kenntnisse erweitert und vertieft. Ich freue mich schon darauf, Ihre Texte mit Ihnen zu besprechen und zu diskutieren.		1. Einführung in die Veranstaltung 2. Region I 3. Region II 4. Übergänge und Riten I 5. Übergänge und Riten II 6. Jahreszeiten I 7. Jahreszeiten II 8. Kultur I 9. Kultur II 10. Bewerbung und Lebenslauf 11. Dankschreiben 12. Grußkarten 13. E-mails 14. Schriftliche Vorstellung der eigenen Person 15. Zusammenfassung der Lernerfolge 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine		Teilnahme Aktive Mitarbeit Klausur am Semesterende	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir üben Schreiben. Zu einem bestimmten Thema üben wir einfache, aber längere Texte zu schreiben. Wir schreiben in verschiedenen Textsorten, wie Brief, E-Mail, Report, Zusammenfassung, usw. Vor allem üben wir: Satzverbindungen (aber, wenn, daraufhin, usw.) feststehende Ausdrücke (um die Ecke biegen, usw.), Junks, Schreibroutinen (Grußformeln, Einleitung, usw.). 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Stunde: Einführung 2.-6. Schreibübungen nach einem Muster 7. Test 8.-14. Schreibübungen 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する 辞書		Mitarbeit, Anwesenheit, Hausaufgaben, 2 Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir üben Schreiben. Zu einem bestimmten Thema üben wir einfache, aber längere Texte zu schreiben. Wir schreiben in verschiedenen Textsorten, wie Brief, Report, Zusammenfassung, usw., vor allem deutsche E-Mails. Vor allem üben wir: Satzverbindungen (aber, wenn, daraufhin, usw.) feststehende Ausdrücke (Zeugen befragen, sich um eine Stelle bewerben, usw.), Junks, Schreibroutinen (Grußformeln, Einleitung, usw.). 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Einführung 2.-6. Schreibübungen nach einem Muster 7. Test 8.-14. Schreibübungen 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Mitarbeit, Anwesenheit, Hausaufgaben, 2 Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs stellen wir in Gruppenarbeit Fragen und mögliche Antworten zu ausgewählten Themen zusammen, um Gesprächsstoff zum Plaudern mit Freunden oder Bekannten zu sammeln. Wir simulieren zufälliges Zusammentreffen unterwegs oder im Café und üben Initiieren leichter Unterhaltung und schnelles verbales Reagieren wenn angesprochen – erwartet oder unerwartet. „Musterbeispiele“ werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt. 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）		1. Auswahl von Gesprächsthemen und -situationen für das Sommersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer. 2.-15. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern mit Vorführungen vor der Klasse.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
Anknüpfend an die Dialogarbeit des 1. Semesters orientieren sich die Gesprächsthemen stärker an individuellen Interessen. Ziel ist die Weiterführung eines Gesprächs nach dem üblichen Smalltalk. Dazu gehören auch Strategien zum Themawechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise. „Musterbeispiele“ werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt. 既習クラスの学生（全て）と未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生を対象とします。 （成績がそれ以外でも受講可。）		1. Auswahl der Themen für das Wintersemester unter Berücksichtigung der Wünsche und Vorschläge der Kursteilnehmer. 2.-15. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Konversationsunterricht ist speziell für Studierende, die in den ersten Semestern in Sprechen nicht so große Fortschritte gemacht haben. Wir werden mit einfachen Themen beginnen (Kleidung, Wohnen, Essen, Reise etc.), mit Übungen zur Wortschatzerweiterung und Ausdrucksweise sowie zur Grammatik.		Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Niveau, Wünschen und Bedürfnissen in der ersten Stunde festgelegt. Bitte nicht versäumen!	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige aktive Teilnahme am Unterricht, Kurzreferate, mündlicher Test	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Konversationsunterricht ist speziell für Studierende, die in den ersten Semestern in Sprechen nicht so große Fortschritte gemacht haben. Wir werden mit einfachen Themen beginnen (Kleidung, Wohnen, Essen, Reise etc.), mit Übungen zur Wortschatzerweiterung und Ausdrucksweise sowie zur Grammatik.		Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Niveau, Wünschen und Bedürfnissen in der ersten Stunde festgelegt. Bitte nicht versäumen!	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige aktive Teilnahme am Unterricht, Kurzreferate, mündlicher Test	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	能登 慶和
講義目的、講義概要		授業計画	
主に DVD 教材を用いて授業を行います。教材ではシリーズごとに様々な場面が設定がされており、それぞれに応じた言い回しやイントネーションを学ぶことができます。授業ではそれらの聞き取りや書き取り、さらにはパターン練習などを行います。それによって、リスニングを中心に基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. オリエンテーション～Folge 1 2. Folge 1 3. " 4. Folge 2 5. " 6. " 7. Folge 3 8. " 9. " 10. Folge 4 11. " 12. Folge 5 13. " 14. " 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Freunde in Deutschland</i>, EMC Publishing, 2010 授業時にテキストのコピー、または必要に応じてその他のプリントを配布します。		期末試験のほか、出席や課題の提出状況、授業への参加度などを加味して、総合的に評価します。	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	能登 慶和
講義目的、講義概要		授業計画	
主に DVD 教材を用いて授業を行います。教材ではシリーズごとに様々な場面が設定がされており、それぞれに応じた言い回しやイントネーションを学ぶことができます。授業ではそれらの聞き取りや書き取り、さらにはパターン練習などを行います。それによって、リスニングを中心に基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. オリエンテーション～Folge 6 2. Folge 6 3. " 4. Folge 7 5. " 6. " 7. Folge 8 8. " 9. " 10. Folge 9 11. " 12. Folge 10 13. " 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Freunde in Deutschland</i>, EMC Publishing, 2010 授業時にテキストのコピー、または必要に応じてその他のプリントを配布します。		期末試験のほか、出席や課題の提出状況、授業への参加度などを加味して、総合的に評価します。	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
Lernziele Hörverständnis üben, Verhalten junger Leute in Deutschland analysieren. Wir sehen kurze DVD Videos und üben Hörverständnis und Sprechfähigkeit.		10 kurze Videos (zu etwa je 6 Minuten) werden studiert und von den StudentInnen nachgespielt. Stunden: 1-6 mit Videos studieren und einüben 7 Test 8-13 mit Videos studieren und einüben 14 Test 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Freunde in Deutschland Texte mit DVD EMC Publishing Der Lehrer bringt die Kopien.		Bewertungskriterien Regelmässige, aktive mündliche (!) Teilnahme Kleine Vokabeltests, Erlernen von Texten, 2 grosse Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
Lernziele Hörverständnis üben, Verhalten junger Leute in Deutschland analysieren. Wir sehen kurze DVD Videos und üben Hörverständnis und Sprechfähigkeit.		10 kurze Videos (zu etwa je 6 Minuten) werden studiert und von den StudentInnen nachgespielt. Stunden: 1-6 mit Videos studieren und einüben 7 Test 8-13 mit Videos studieren und einüben 14 Test 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Freunde in Deutschland Texte mit DVD EMC Publishing Der Lehrer bringt die Kopien.		Bewertungskriterien Regelmässige, aktive mündliche (!) Teilnahme Kleine Vokabeltests, Erlernen von Texten, 2 grosse Tests	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (geography, culture, and social issues) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving poster sessions. All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: Approximately 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (geography) Week 3: Listening passage 1 (geography), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (geography), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (geography), planning session 3 Week 6: Poster sessions, reading passage 3 (culture) Week 7: Poster sessions, listening passage 3 (culture) Week 8: Reading passage 4 (culture) Week 9: Listening passage 4 (culture) Week 10: Reading passage 5 (social issues) Week 11: Listening passage 5 (social issues) Week 12: Listening passage 6 (social issues) Week 13: Poster sessions Week 14: Poster sessions Week 15: Poster sessions; review and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (30%), poster sessions (50%)	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (history, economics, and politics) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations (group and individual). All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: Approximately 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (history) Week 3: Listening passage 1 (history), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (history), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (history), planning session 3 Week 6: Group presentations, reading passage 3 (economics) Week 7: Group presentations, listening passage 3 (economics) Week 8: Reading passage 4 (economics) Week 9: Listening passage 4 (economics) Week 10: Reading passage 5 (politics) Week 11: Listening passage 5 (politics) Week 12: Listening passage 6 (politics) Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (30%), presentations (50%)	

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅴ 総合ドイツ語Ⅲa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のみの授業（週 2 コマ）により、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 *注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅴ」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語Ⅳの成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅴ」（既習クラス用）を受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～7 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅴ（選択必修）の単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅵ（選択必修）へ進めません。	

05 年度以降 04 年度以前	総合ドイツ語Ⅵ 総合ドイツ語Ⅲb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のみの授業（週 2 コマ）により、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 *注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅵ」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語Ⅴの成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅵ」（既習クラス用）を必ず受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 8～14 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅵ（選択必修）の単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅶ（選択必修）へ進めません。	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Überwiegend werden im Unterricht gemeinsam Sachtexte aus Geschichte, Gesellschaft und Politik bearbeitet, die von den Kursteilnehmern in Hausarbeit vorzubereiten sind. Dabei sollen nicht nur Fachwörter und Ausdrucksformen geklärt, sondern es soll auch über die Inhalte diskutiert werden. Über die Autoren und/oder Hintergründe eines Themas werden abwechselnd von je einem Kursteilnehmer im Forum Kurzreferate gehalten. Die Texte werden nach Rücksprache in der Klasse aus einer Liste mit Vorschlägen ausgewählt und in Kopien verteilt. Zu Beginn des Semesters jedoch bearbeiten wir ein Kapitel aus dem Buch „Die Deutschen schreien“ von Florian Coulmas.		1. Einführung 2.- 4. Florian Coulmas: Die Deutschen schreien 5.-14. Bearbeitung von Texten nach Auswahl durch die Kursteilnehmer 15. Rückblick und Evaluierung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht, Kurztests in unregelmäßigen Abständen, Kurzreferate	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Überwiegend werden im Unterricht gemeinsam Sachtexte aus Geschichte, Gesellschaft und Politik bearbeitet, die von den Kursteilnehmern in Hausarbeit vorzubereiten sind. Dabei sollen nicht nur Fachwörter und Ausdrucksformen geklärt, sondern es soll auch über die Inhalte diskutiert werden. Über die Autoren und/oder Hintergründe eines Themas werden abwechselnd von je einem Kursteilnehmer im Forum Kurzreferate gehalten. Die Texte werden nach Rücksprache in der Klasse aus einer Liste mit Vorschlägen ausgewählt und in Kopien verteilt. Zu Beginn des Semesters jedoch bearbeiten wir ein Kapitel aus dem Buch „Die Deutschen schreien“ von Florian Coulmas.		1. Einführung 2.- 4. Florian Coulmas: Die Deutschen schreien 5.-14. Bearbeitung von Texten nach Auswahl durch die Kursteilnehmer 15. Rückblick und Evaluierung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Beurteilung: regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht, Kurztests in unregelmäßigen Abständen, Kurzreferate	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Sommersemester 2011 In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Das Buch „Lesetraining“ konzentriert sich auf systematische Übungen zur Fertigkeit „Leseverstehen“. Erster Teil: Heranführung der Lerner an den Umgang von Texten und Lesestrategien (Niveau A1/A2). Zweiter Teil: Wortschatzerweiterung und etwas längere Texte mit Übungsaufgaben (Niveau A2). Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.		1.-15. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gelesen und Aufgaben dazu bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet. Ein Diktat des Textes rundet den Unterricht ab.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語（時事） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Wintersemester 2011/12 In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Aus dem Internet, eine Sage, aus Magazinen z.B. „Deutsch perfekt“ werden aktuelle Kurzbeiträge genommen und gelesen. Außerdem gibt es zu dem Text Fragen. Die Bearbeitung der Texte wird variieren. Mal werden Textteile zusammengefügt, mal Lücken mit Worten gefüllt oder Überschriften zu den Artikeln gefunden werden. Danach soll über das Thema diskutiert werden. Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Anwesenheit wird als sehr positiv gewertet.		1.-15. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gelesen bez. nach Aufgabenstellung bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet und selbst Fragen erstellt. Es folgt eine Diskussion über das Thema.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Anwesenheit wird als sehr positiv gewertet.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Studenten im 3. und 4. Studienjahr lernen in diesem Kurs, verschiedene Textsorten selbstständig auf Deutsch zu schreiben. Dabei wird auch ein bisschen Grammatik und Wortschatz wiederholt und ausgebaut. Wenn von den Studenten gewünscht, können in einigen Stunden auch Übungen für den schriftlichen Teil der ZD (oder ähnliche Prüfungen) gemacht werden.		1. Woche: Unterrichtsvorstellung und Kennenlernen 2. Woche: Geschäftsbrief 3. Woche: Geschäftliche E-Mail 4. Woche: Einladung 5. Woche: Terminvorschlag / Zu- und Absage 6. Woche: Wiederholung und Übungen 7. Woche: Notiz / Mitteilung 8. Woche: Kurzbrief 9. Woche: Arbeitsbericht 10. Woche: Unfallbericht 11. Woche: Wiederholung und Übungen 12. Woche: Glückwunschkarten 13. Woche: Dankesbrief 14. Woche: Urlaubspostkarte 15. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schreiben in Alltag und Beruf, Intensivtrainer A2/B1』 (Langenscheidt)		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters.		1. Woche: Unterrichtsvorstellung und Kennenlernen 2. Woche: Beileidkarte 3. Woche: Bestellung 4. Woche: Lieferschein 5. Woche: Rechnung / Überweisung 6. Woche: Wiederholung und Übungen 7. Woche: Anfrageschreiben 8. Woche: Angebot / Kostenvoranschlag 9. Woche: Auftrag und Bestätigung 10. Woche: Absage 11. Woche: Wiederholung und Übungen 12. Woche: Reklamation 13. Woche: Entschuldigung 14. Woche: Stellengesuch / Bewerbungsschreiben 15. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schreiben in Alltag und Beruf, Intensivtrainer A2/B1』 (Langenscheidt)		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In der Aufsatzklasse werden wir uns mit dem korrekten Gebrauch von Grammatik sowie kreativem Schreiben auseinandersetzen. Einerseits sollen die Studenten zu Bildern ihre Eindrücke schreiben, andererseits wird das Nachvollziehen von grammatischen Übungen verlangt.		1. Einführung, Erklärung des Semesterablaufs, Tests etc. 2. Bildbeschreibung I 3. Grammatik I (Negationsformen) 4. Bildbeschreibung II 5. Grammatik II (Verben mit Dativ und Akkusativ) 6. Bildbeschreibung III 7. Grammatik III (Position des Verbs in HS und NS) 8. Bildbeschreibung IV 9. Grammatik IV (Konjunktiv II) 10. Bildbeschreibung V 11. Grammatik V (bestimmte und unbestimmte Artikel) 12. Bildbeschreibung VI 13. Grammatik VI (Adjektivdeklinaton) 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ②	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		・ 期末テスト ・ 出席	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In der Aufsatzklasse werden wir uns mit dem korrekten Gebrauch von Grammatik sowie kreativem Schreiben auseinandersetzen. Einerseits sollen die Studenten zu Bildern ihre Eindrücke schreiben, andererseits wird das Nachvollziehen von grammatischen Übungen verlangt.		1. Einführung, Erklärung des Semesterablaufs, Tests etc. 2. Bildbeschreibung I 3. Grammatik I (Negationsformen) 4. Bildbeschreibung II 5. Grammatik II (Verben mit Dativ und Akkusativ) 6. Bildbeschreibung III 7. Grammatik III (Position des Verbs in HS und NS) 8. Bildbeschreibung IV 9. Grammatik IV (Konjunktiv II) 10. Bildbeschreibung V 11. Grammatik V (bestimmte und unbestimmte Artikel) 12. Bildbeschreibung VI 13. Grammatik VI (Adjektivdeklinaton) 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ②	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		・ 期末テスト ・ 出席	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir werden uns verschiedenen Formen des Schreibens widmen, von einfachen persönlichen Mitteilungen über E-Mails bis hin zu offiziellen und geschäftlichen Briefen. Dabei werden wir auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern. Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch Fragen oder Wünsche der Studenten sind willkommen. Schreiben soll Spaß machen...		Der Ablauf des Semesters wird zu Beginn besprochen. Dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer. 1. Einführung 2. Kurzes schriftliches Vorstellen 3. Buch Lektion 1 und 2 4. Persönliches Schreiben 5. Buch Lektion 3-5 6. E-Mails 7. Buch Lektion 6-8 8. Kleiner Text und Lektion 9-10 9. Berichte im Präteritum 10. Lektion 11-14 11. Offizieller Brief 12. Lektion 15-17 13. Lektion 18-20 14. Gesamtzusammenfassung (1) 15. Gesamtzusammenfassung (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』（Verlag 白水社） ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語（作文） ドイツ語Ⅲ（作文）	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Herbstsemester ist eigentlich die Fortsetzung des Frühlingsemesters; neue Studenten sind dennoch erwünscht, sofern sie das Buch mitbringen und die Bereitschaft, sich aktiv zu beteiligen. Wir beginnen wiederholend, aber dann fortschreitend im Aufbau.		Ich orientiere mich wieder am Durchschnittsniveau der Teilnehmer. 1. Einführung und Wiederholung 2. Wiederholungen aus dem Buch 3. Persönliche Mitteilungen 4. Bucharbeit, Lektion 21-23 5. Freies Schreiben im Perfekt 6. Buch Lektion 24-26 7. Kleiner Test und Lektion 28-29 8. E-Mails und Lektion 30-31 9. Lebensläufe 10. Aus Notizen einen Bericht machen 11. Buch Lektion 32-34 12. Auf Anzeigen antworten, Lektion 35-38 13. Lektion 39-40 und freies Material 14. Gesamtzusammenfassung (1) 15. Gesamtzusammenfassung (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』（Verlag 白水社） ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir studieren mit dem Buch "Bibelgeschichten 2" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio. Jede Stunde lesen wir ein kurzes Kapitel, hören es auf Kasette, und arbeiten dann mit Textverständnisfragen. Bei Bedarf wiederholen wir die Grammatik, und jede Stunde machen wir auch Kommunikationsübungen mit interessanten Themen. Im mündlichen Test hält jede Studentin / jeder Student eine kleine Rede zu einer der Bibelgeschichten, in der schriftlichen Arbeit schreiben Sie Ihre Gedanken zu einem der behandelten Themen auf. Ab und zu singen wir Volkslieder.		Jede Stunde lesen wir ein kurzes Kapitel, hören es auf Kasette, und arbeiten dann mit Textverständnisfragen. Bei Bedarf wiederholen wir die Grammatik, und jede Stunde machen wir auch Kommunikationsübungen mit interessanten Themen.	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Bibelgeschichten 2" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio		Im mündlichen Test hält jede Studentin / jeder Student eine kleine Rede zu einer der Bibelgeschichten, in der schriftlichen Arbeit schreiben Sie Ihre Gedanken zu einem der behandelten Themen auf.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir studieren mit dem Buch "Bibelgeschichten 2" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio. Jede Stunde lesen wir ein kurzes Kapitel, hören es auf Kasette, und arbeiten dann mit Textverständnisfragen. Bei Bedarf wiederholen wir die Grammatik, und jede Stunde machen wir auch Kommunikationsübungen mit interessanten Themen. Im mündlichen Test hält jede Studentin / jeder Student eine kleine Rede zu einer der Bibelgeschichten, in der schriftlichen Arbeit schreiben Sie Ihre Gedanken zu einem der behandelten Themen auf. Ab und zu singen wir Volkslieder.		Jede Stunde lesen wir ein kurzes Kapitel, hören es auf Kasette, und arbeiten dann mit Textverständnisfragen. Bei Bedarf wiederholen wir die Grammatik, und jede Stunde machen wir auch Kommunikationsübungen mit interessanten Themen.	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Bibelgeschichten 2" von Gertrud Fussenegger, für japanische Studenten bearbeitet von Professor Takashi Oshio		Im mündlichen Test hält jede Studentin / jeder Student eine kleine Rede zu einer der Bibelgeschichten, in der schriftlichen Arbeit schreiben Sie Ihre Gedanken zu einem der behandelten Themen auf.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Über Deutschland und Japan sprechen In diesem Kurs werden Strategien und Redemittel erlernt, die für die Gespräche zu einem bestimmten kulturellen Aspekt nützlich sind. Zu einem bestimmten Thema bekommen Sie einige Wörter sowie bestimmte Grammatikpunkte, die Sie für eine (Pro- und Kontra) Diskussion, für eine Erzählung oder für einen Kurzvortrag benutzen sollen. Gearbeitet wird vor allem in Kleingruppen oder im Plenum.		1. Vorstellung / Kurzvorträge 2. Thema 1 3. Thema 1 4. Thema 2 5. Thema 2 6. Kurzvorträge 7. Kurzvorträge 8. Thema 3 9. Thema 3 10. Thema 4 11. Thema 4 12. Thema 5 13. Thema 5 14. Kurzvorträge 15. Kurzvorträge	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		Regelmäßige Anwesenheit, 2 Kurzvorträge im Plenum	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs ist die Fortsetzung von 上級ドイツ語スピーキング a. Als Vorlage für die Diskussionsthemen dient die Podcast-Sendung "Slow-German". Über die darin behandelten Themen werden wir im Kurs diskutieren.		1. Vorstellung / Themenauswahl 2. Thema 1 3. Thema 1 4. Thema 2 5. Thema 2 6. Kurzvorträge 7. Kurzvorträge 8. Thema 3 9. Thema 3 10. Thema 4 11. Thema 4 12. Thema 5 13. Thema 5 14. Kurzvorträge 15. Kurzvorträge	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		Regelmäßige Anwesenheit, 2 Kurzvorträge im Plenum	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand verschiedener Sprechsanlässe (Bildbeschreibung, Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel und Gesprächs- bzw. Vortragsstrukturen zunächst in Partnerarbeit oder in kleineren Gruppen eingeübt, später dann vor dem Plenum in Rollenspielen oder offenen Diskussionen vorgetragen werden. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die den mündlichen Aufgaben der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung entsprechen (Schaubildbeschreibungen, Rollenspiele). Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien und Materialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie (mindestens) einem Plenumsvortrag zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand verschiedener Sprechsanlässe (Bildbeschreibung, Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel und Gesprächs- bzw. Vortragsstrukturen zunächst in Partnerarbeit oder in kleineren Gruppen eingeübt, später dann vor dem Plenum in Rollenspielen oder offenen Diskussionen vorgetragen werden. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die den mündlichen Aufgaben der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung entsprechen (Schaubildbeschreibungen, Rollenspiele). Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien und Materialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie (mindestens) einem Plenumsvortrag zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Studenten im 3. und 4. Studienjahr lernen in diesem Kurs, selbstständig und frei miteinander auf Deutsch zu sprechen. Dabei benutzen wir verschiedene Medien wie z.B. Videos, Tonaufnahmen und Präsentationen. Später sollen die Studenten dann eigene Tonaufnahmen und Präsentationen herstellen und vorstellen. Wenn von den Studenten gewünscht, können in einigen Stunden auch Übungen für den mündlichen Teil der ZD (oder ähnliche Prüfungen) gemacht werden.		1. Woche: Unterrichtsvorstellung und Kennenlernen 2. Woche: Dialogübungen mit Videos, Teil 1 3. Woche: Dialogübungen mit Videos, Teil 2 4. Woche: Prüfungsvorbereitung SD 2 5. Woche: Prüfungsvorbereitung ZD 6. Woche: Wiederholung und Übungen 7. Woche: Tonaufnahme und -bearbeitung, Teil 1 8. Woche: Tonaufnahme und -bearbeitung, Teil 2 9. Woche: Präsentation der eigenen Tonaufnahmen 10. Woche: Vorstellen der Dokkyo 11. Woche: Wiederholung und Übungen 12. Woche: Erstellen eigener Präsentationen, Teil 1 13. Woche: Erstellen eigener Präsentationen, Teil 2 14. Woche: Präsentationsvorstellung 15. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

09 年度以降 08 年度以前 04 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話） ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	S. ケルバー阿部
講義目的、講義概要		授業計画	
Fortsetzung des Sommersemesters.		1. Woche: Unterrichtsvorstellung und Kennenlernen 2. Woche: Dialogübungen mit Videos, Teil 1 3. Woche: Dialogübungen mit Videos, Teil 2 4. Woche: Prüfungsvorbereitung SD 2 5. Woche: Prüfungsvorbereitung ZD 6. Woche: Wiederholung und Übungen 7. Woche: Tonaufnahme und -bearbeitung, Teil 1 8. Woche: Tonaufnahme und -bearbeitung, Teil 2 9. Woche: Präsentation der eigenen Tonaufnahmen 10. Woche: Vorstellen der Dokkyo 11. Woche: Wiederholung und Übungen 12. Woche: Erstellen eigener Präsentationen, Teil 1 13. Woche: Erstellen eigener Präsentationen, Teil 2 14. Woche: Präsentationsvorstellung 15. Woche: Wiederholung und Semesterabschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht und ein (kleiner) Test am Semesterende.	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Deutsche populäre Musik (1) In diesem Kurs werden wir uns mit der deutschen Popmusik beschäftigen, mit dem Ziel, sowohl das Text- als auch das Hörverständnis zu schulen. Vor dem Hören werden kurze Hintergrundinformationen zum Textinhalt gegeben. Übungsaufgaben sollen zudem einen besseren Einstieg in das erste Hören garantieren. Sollten Videos zu den Musikstücken vorhanden sein, so werden diese ebenfalls im Unterricht eingesetzt und analysiert.		1. Vorstellung 2. 1. Musikstück 3. 1. Musikstück 4. 2. Musikstück 5. 2. Musikstück 6. 3. Musikstück 7. 3. Musikstück 8. Hörtest 9. 4. Musikstück 10. 4. Musikstück 11. 5. Musikstück 12. 5. Musikstück 13. 6. Musikstueck 14. 6. Musikstück 15. Hörtest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien der einzelnen Musikstücke werden verteilt.		Anwesenheit und kurze mündliche Zusammenfassung eines Liedes sowie 2 Tests.	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Deutsche populäre Musik (2) Dieser Kurs ist die Fortsetzung von Deutsche populäre Musik 1 (siehe oben).		1. Vorstellung 2. 1. Musikstück 3. 1. Musikstück 4. 2. Musikstück 5. 2. Musikstück 6. 3. Musikstück 7. 3. Musikstück 8. Hörtest 9. 4. Musikstück 10. 4. Musikstück 11. 5. Musikstück 12. 5. Musikstück 13. 6. Musikstueck 14. 6. Musikstück 15. Hörtest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien der einzelnen Musikstücke werden verteilt.		Anwesenheit und kurze mündliche Zusammenfassung eines Liedes sowie 2 Tests.	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeiträgen sollen Aufnahme- und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verständnis größerer Zusammenhänge als auch präziser Details betrifft. Hörübungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen sowie Diktat-Training gehören ebenfalls zum Kursprogramm.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie einem Diktat zusammensetzen.	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeiträgen sollen Aufnahme- und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verständnis größerer Zusammenhänge als auch präziser Details betrifft. Hörübungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen sowie Diktat-Training gehören ebenfalls zum Kursprogramm.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht, Unterrichtsbeiträgen sowie einem Diktat zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前	中世ドイツ語 a 中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen.		1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3.-15. Lektüre (Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters	

09 年度以降 08 年度以前	中世ドイツ語 b 中世ドイツ語 II	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziel dieses Unterrichts ist es, an Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen einen Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur zu vermitteln. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Texte ansehen.		1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3.-15. Lektüre (Die Festlegung der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters	

09 年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
Businessdeutsch Wirtschaftsdeutsch		Stunden: 1-6 Wirtschaftsbriefe analysieren und schreiben In den ersten Stunden werden wir Lebenslauf, Nachfrage, Angebot und Bestellung besprechen und üben. In den folgenden Stunden werden wir in Detail gehen, die nach dem Interesse und Niveau der Klasse entschieden werden. 7 Test. 8-13 Wirtschaftsbriefe analysieren und schreiben 14 Test 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Der Lehrer bringt die Kopien.		Bewertungskriterien Regelmässige, aktive Teilnahme Kleine Vokabeltests, 2 grosse schriftliche Tests	

09 年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
Businessdeutsch Wirtschaftsdeutsch		Stunden: 1-6 Wirtschaftsbriefe analysieren und schreiben In den ersten Stunden werden wir Lebenslauf, Nachfrage, Angebot und Bestellung besprechen und üben. In den folgenden Stunden werden wir in Detail gehen, die nach dem Interesse und Niveau der Klasse entschieden werden. 7 Test. 8-13 Wirtschaftsbriefe analysieren und schreiben 14 Test 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Der Lehrer bringt die Kopien.		Bewertungskriterien Regelmässige, aktive Teilnahme Kleine Vokabeltests, 2 grosse schriftliche Tests	

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科の 3 年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することが可能です。 セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー（1000-2000 語）を書き、最終授業で発表します。各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。 Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目標とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞や雑誌、オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようになることを目指します。 ・履修者は TOEIC 500 点を目安とする。 ・German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。 ・リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で発表。		出席・授業参加、課題、リサーチペーパー、発表など ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科の 3 年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することが可能です。 セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー（1000-2000 語）を書き、最終授業で発表します。各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。 Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目標とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞や雑誌、オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようになることを目指します。 ・履修者は TOEIC 500 点を目安とする。 ・German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。 ・原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。 ・リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で発表。		出席・授業参加、課題、リサーチペーパー、発表など ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	金井 満 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。		毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。 初回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。 また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第1 週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	金井 満 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第1 学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。		毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。 初回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。 また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第1 週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05 年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得を目標にしました。2 年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3 年次以降の専門研究に向けて準備することを目指します。「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。 ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） 春学期は、共通テキストの輪読をもとにディスカッションやディベートを行います。また、テキストのテーマに基づき、2 回レポートを提出してもらいます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、08 年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09 年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習ⅠまたはⅡ」履修済みであることが条件となります。		- オリエンテーション - テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション① - 同② - 同③ - 同④、中間レポート課題提示 - 文献検索実習 - ディスカッション/ディベート - テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション① - 同②、中間レポート提出 - 同③ - 同④ - 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 - ディスカッション/ディベート - 予備日 - まとめ、秋学期計画	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1 回でも出さなかったり、6 回以上欠席すると単位は認めません。	

05 年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期前半は 4～5 人ひと組でのグループ発表、後半は各個人による個人発表を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。 前半は、教員と学生が相談の上で決めたドイツ語圏に係るテーマについて、グループごとに調査し発表します。後半は、できればグループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、個人発表をします。また、グループ発表、個人発表をまとめるような形でのレポートを 2 回提出してもらいます。3 年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、08 年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09 年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習ⅠまたはⅡ」履修済みであることが条件となります。		- オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 - グループ発表① - 同② - 同③、中間レポート課題提示 - 個人発表① - 同② - 同③ - 同④、中間レポート提出 - 同⑤ - 同⑥ - 同⑦ - 同⑧、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 - 同⑨ - 同⑩ - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1 回でも出さなかったり、5 回以上欠席すると単位は認めません。	

09 年度以降 08 年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習 I	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は将来、職業として日独の通訳に携わることを目指す学生、またはそれと同等のレベルまでドイツ語力を向上させたいと考えている学生を対象として、通訳の理論と実践、練習方法について演習形式で学びます。 今年度の授業定員は 20 名です。定員を超える履修希望があった場合は教務課による抽選で履修者を決定しますので掲示等に注意してください。 春学期は主に通訳に必要な基礎語学力の向上を図ります。授業時間内の練習だけでは進歩は望めないので、授業外でも積極的に練習する姿勢が望まれます。		1. 授業の進度計画と目標について 2. 通訳を体験してみようー通訳者という仕事 3. 通訳者に求められる能力とその強化方法 4. 通訳スキルとは何かー練習の意味と方法 5. 自分の語学能力を把握するー個別練習メニューの作成 6. 聴解力強化と音読速度の向上 7. プロソディ分析とシャドウイング 8. メモリー・レッスンー日本語から日本語へ 9. メモリー・レッスンードイツ語からドイツ語へ 10. 語彙力の強化ーどのように語彙力を増強するか 11. リスpons(反応能力)の改善 12. 内容理解力の強化ー要約(サマライズ) 13. 内容理解力の強化ーパラフレイズ 14. デリバリーとは 15. 個別目標の達成度チェック	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はプリント及びデータで配布します。		原則的には個別目標の達成度で評価します。具体的な評価ポイントは授業で説明していきます。	

09 年度以降 08 年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習 II	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的と履修条件は春学期と同じです。秋学期では、authentisch な材料を使って実践的な練習を行います。 通訳は音で聞いて音で訳していく仕事ですから、聴解能力と発声・発音を含むデリバリーの質は、その評価に直結しています。このことを念頭に置いて、個別の弱点の克服に努めていきます。また春学期に学んだ事柄を反映させて、特定の専門分野への対応力を養っていきます。		1. 授業の進度計画と個別目標の達成度チェック 2. メモリー・レッスンー日本語からドイツ語へ 3. 逐次リピーターー日本語から日本語へ、ドイツ語からドイツ語へ 4. 大意要約ー日本語からドイツ語へ 5. 大意要約ー日本語からドイツ語へ 6. 大意要約ー日本語からドイツ語へ 7. 大意要約ードイツ語から日本語へ 8. 大意要約ードイツ語から日本語へ 9. 大意要約ードイツ語から日本語へ 10. 逐次通訳ー日本語からドイツ語へ 11. 逐次通訳ー日本語からドイツ語へ 13. 逐次通訳ードイツ語から日本語へ 14. 逐次通訳ードイツ語から日本語へ 15. 逐次通訳による個別目標の達成度チェック	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はプリント及びデータで配布します。		実際の通訳による学習目標の達成度によって評価します。	

09 年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的： この演習の目的は、将来の職業として翻訳家になろうと考える方に、その基礎を養おうというものです。ひとくちに翻訳と言っても、いろいろな分野があるので、いわゆる「実務翻訳」といわれる分野を中心にして、翻訳家になるには何をすればよいか、どのような点に注意を払えばよいかを学びます。もちろん、翻訳家にならなくとも、それと同じだけのテキストの理解能力を身につけるためにも役立つ授業にしたいと思います。 概要： 典型的な幾つかの分野のテキストを用意し、それを受講者に前もって訳してもらい、そこで出てきた問題点をコメントしながら、語学的・内容的なポイントを学んでいきます。たとえば、知らない概念や単語が出てきたら、どのように調べていくかという実践的な問題も取り上げます。 なお、この演習の参加者は定員 20 名となっていますから、希望者が多い場合には抽選となります。		1. 導入：翻訳とは（歴史と分野） 2. 事例にそって勉強法の紹介 3～6. 新聞等のジャーナリスティックなテキスト 7～10. 社会現象を扱ったテキスト 11～14. 諸分野のテキスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にコピーを配布します。		毎回の訳の提出状況、および期末試験で評価します。	

09 年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 本演習の目的は、ドイツ語圏でインターンシップ（企業研修）を体験したいと考えている学生を対象とし、(1)インターンシップの意義、(2)参加に際しての心構え、(3)インターンシップ先の町や企業・機関での生活や活動、(4)経済ドイツ語への理解、等のテーマを演習形式で実践的に学びながら、参加学生のインターンシップへの事前準備を行うことである。 講義概要： (1)本年度の定員は 35 名とする。定員を超える数の学生が受講を希望する場合には、教務課による抽選により受講者を決定する。 (2)授業は原則として、小グループによるテーマ別報告を想定している（報告担当者にはそのつど発表レジュメの作成が義務づけられる）。ただし、現代ドイツ全般にかかわる基礎的事項の確認が中心となる第 4 回目までは講師が用意するレジュメに基づく講義形式の授業と討論が中心となる。		第 1 回： 演習の目的、春学期の計画、分担の決定についての説明 第 2 回： インターンシップとは何か？ 第 3 回： 現代ドイツに関する基礎知識 (1) 第 4 回： 現代ドイツに関する基礎知識 (2) 第 5 回： ノルトライン＝ヴェストファーレン州の主要都市と主要産業 (1) 第 6 回： ノルトライン＝ヴェストファーレン州の主要都市と主要産業 (2) 第 7 回： ドイツ企業研究 (1) 第 8 回： ドイツ企業研究 (2) 第 9 回： ドイツ企業研究 (3) 第 10 回： ドイツ語による履歴書の書き方 第 11 回： 経済ドイツ語 (1) 第 12 回： 経済ドイツ語 (2) 第 13 回： 経済ドイツ語 (3) 第 14 回： 経済ドイツ語 (4) 第 15 回： まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回関連資料のコピーを参加者に配布する。		(1) グループ報告に対する評価、(2) 演習への貢献度、(3) 出席状況、(4) 学期末に提出する課題（レポート）に対する評価、等に基づき総合的に決定する。	

09 年度以降	留学準備特殊演習	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の大学で学ぶにはどのような準備が必要でしょうか。またドイツ語力はどの程度必要とされるのでしょうか。また、住居はどうしたら見つけられるか。 そんな具体的なことから、留学で何が変わるか、何を学ぶかまで、ドイツ語圏への長期留学を目指している皆さんを対象に、その意義、心構え、事前準備、留学先の町や大学での生活等について、演習形式で実践的に学びます。また、ドイツ語圏から獨協に留学している皆さんのお話も聞きながら、寸劇で仮想ドイツ留学体験もしてみましよう。積極的な皆さんの参加を楽しみにしています。		1. ドイツの大学と日本の大学 2. ドイツの学校制度 3. ドイツへ留学した人々 4. ドイツ日本交流史 5. ドイツ留学の方法 6. 何を学ぶか 7. 資料収集 8. 大学を選ぶ 9. 留学先を決める 10. 留学の手続き 11. コンタクトをとる、メールを書く 12. ドイツ語圏からの留学生との懇談会 13. 日本を知らない私 14. さあ、ドイツ行き（寸劇版『仮想留学体験』） 15. ドイツ留学総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
犬養道子『ラインの河辺』中公文庫 1973 築島謙三『「日本人論」の中の日本人（上・下）』講談社学術文庫 1449 講談社 2000 年 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』 他		出席（出欠・遅刻）、授業参加（発音練習）、レポート。また、5 回以上欠席の場合は履修中止とみなします。	

09 年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この演習では、外国語教育の歴史全般、日本におけるドイツ語教育の歴史、語学教育の理論と背景、語学教育の実践例などを中心に、ドイツ語教育全体に対する視野を広げることを目的にします。 概要 基本的には、各項目の概要を講義した後、担当者を決めてそれぞれの項目に関係した項目を調べて、発表してもらう形で進めます。その過程で、発表内容だけでなく発表の仕方や、ハンドアウトの作り方なども同時に学ぶことを目指します。 受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。 なお、受講者数は 35 名となっていますので、希望者が多い場合には抽選となります。		1. 外国語教育の歴史 2. 日本における外国語教育の歴史と背景 3. ドイツ語教育の歴史 4～7. 外国語教育の理論と議論 8～10. 典型的な外国語教授法 11～14. 外国語教育の現状と将来 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかで、テーマごとに紹介します。		授業への出席や発表も考慮しながら、学期末に提出してもらうレポートで評価します。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 a ドイツ語学概論 I	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語を学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。 講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。春学期では、言語についての一般的な問題を取り上げます。言語学系の授業とだぶる部分も出てくるとは思いますが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたいと思います。 講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見を持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。		- ことばの不思議-導入と年間計画 - ことばの不思議 (1) - ことばの不思議 (2) - ことばの不思議 (3) - ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1) - ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2) - それってドイツ語-ドイツ語の方言 - 文法のお話 (1)-品詞ってなに - 文法のお話 (2)-木を見て森を見ず - 文法のお話 (3)-パンドラの箱 - 辞書は大きなおもちゃ箱 - 言語というブラックホール - 言語のたのしみ - まとめ - 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 b ドイツ語学概論 II	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語を学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。 講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。秋学期には範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたいと考えています。 講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見を持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。		- 言語は怪人二十面相 - 言語学の歴史 - 音の世界-音声学・音韻論 - 形にこだわって-形態論 - 文の組み立てについて-統語論 - 意味って何 (1)-意味論 - 意味って何 (2)-意味論 - 言語は生き物 (1)-実用論 - 言語は生き物 (2)-実用論 - 言語と社会-社会言語学 - 言語と心-言語心理学あるいは認知 - 言語研究への道 - 言語研究への道 - まとめ - 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 a ドイツ文学概論 I	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期では、「文学」って何？という問題から授業を始めます。 「読書感想文」を書かされて辟易（へキエキ）しませんでしたか？ 「国語」の入試で解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか？ 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか？ こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。 また、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を中心に据えて、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えてみましょう。 また、文学と思想（哲学・宗教など）のつながりも、必要に応じて考えていきます。		詳しくは第1回授業で説明します。 1. 導入 2. 文学ははじめの一步（グリム「白雪姫」）1 3. 同 2 4. 同 3 5. 「文学」とは何か？ 6. 文学の基本ジャンル 7. 文学研究の意味 読めばわかるのになぜ？ 8. 文学と思想 9. 作者とは？ 作者の死？ 10. 読者とは？ 「読む」だけ？ 11. 本とは？ 本はなくなる？ 12. 翻訳の諸問題 13. 明治期の翻訳 14. 春学期のまとめ 15. 試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。		出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません）、小レポート 20%および期末試験 60%によります。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 b ドイツ文学概論 II	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では、主にドイツ文学と思想のアウトライン（歴史）を知ることを目標とします。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？ 18 世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想（哲学・宗教など）が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。		詳しくは第1回の授業で説明します。 1. 導入 2. 近代的な恋愛のはじまり（ゲーテ『ウェルテル』） 3. 感情の実験詩、シラー「歓喜に寄せて」 4. 苦悩する近代人？ ゲーテ『ファウスト』 5. 1770 年 ベートーベン、ヘーゲル、ヘルダーリン 6. ロマン派というアヴァンギャルド（前衛派） 7. シャミッソー『影をなくした男』を読む 8. 文学が文学だった頃（19 世紀リアリズムの時代）（ビュヒナー『ヴォイツェク』） 9. 19 世紀後半からの児童少年文学（『もじゃもじゃペーター』『ハイジ』など） 10. イタリアへのあこがれ（T・マン『ヴェニスに死す』） 11. 見えない世界との出会い（20 世紀前半）（カフカ『変身』） 12. クリスマス特別編「きよしこの夜」 13. 過去の克服？ 現代ドイツ文学（シュリンク『朗読者』） 14. 秋学期のまとめ 15. 試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：H・シュラッファ『ドイツ文学の短い歴史』和泉，安川訳，同学社，2008 年 テキストはコピーを配布し、文献はその都度紹介します。		出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません）、小レポート 20%および期末試験 60%によります。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の言語 a ドイツ語学各論 I	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが母語を習得する過程で最初に学ぶのは「音」です。その後、日常生活を通じて、さまざまなシチュエーションで言葉の意味や用法を学び、次第にネイティブスピーカーとしての語感を身につけていきます。 きれいで、ドイツ語らしい「発音」と「メロディー」で話すことのできる人は、ドイツ語がお上手ですねと褒められます。文法的に正しいドイツ語を話すことも大切ですが、きれいな正しい発音で話すことも同じくらい大切なことなのです。 さて、皆さんはドイツ語の「音」をどのように習ったのでしょうか。また皆さんのドイツ語の発音は正しいのでしょうか。ドイツ語の発音の仕組みはどうなっているのでしょうか。また、きれいなドイツ語の発音とはどのようなものなのでしょうか。 この授業では、コミュニケーション能力の重要な要素であるドイツ語を「聞く」「話す」際の重要な要素である「音」や「発音」の仕組みについてお話し、皆さんときれいな、正しいドイツ語の発音とは何かを考えていきます。 春学期は発音全般、そして母音を中心にお話します。		1. ドイツ語の音について 2. 発声と聞き取り 3. 発音練習の実際 4. 語とアクセント 5. 文とアクセント 6. リズム 7. メロディー 8. ポーズ 9. 長母音、単母音 10. Ö 音と Ü 音 (ウムラウト) 11. O 音と U 音 12. E 音 13. 二重母音 14. 弱化した母音、語頭音 15. 復習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト I. Albrecht, U. Hirschfeld, Y. Kakinuma 『Deutsche Phonetik für japanische Studenten』 (『日本人のためのドイツ語発音コース』) 獨協大学外国語 教育研究所 2005 年 他		出席 (出欠・遅刻)、授業参加 (発音練習)、レポート 定期試験。また、5 回以上欠席の場合は履修中止とみなします。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の言語 b ドイツ語学各論 II	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちが母語を習得する過程で最初に学ぶのは「音」です。その後、日常生活を通じて、さまざまなシチュエーションで言葉の意味や用法を学び、次第にネイティブスピーカーとしての語感を身につけていきます。 きれいで、ドイツ語らしい「発音」と「メロディー」で話すことのできる人は、ドイツ語がお上手ですねと褒められます。文法的に正しいドイツ語を話すことも大切ですが、きれいな正しい発音で話すことも同じくらい大切なことなのです。 さて、皆さんはドイツ語の「音」をどのように習ったのでしょうか。また皆さんのドイツ語の発音は正しいのでしょうか。ドイツ語の発音の仕組みはどうなっているのでしょうか。また、きれいなドイツ語の発音とはどのようなものなのでしょうか。 この授業では、コミュニケーション能力の重要な要素であるドイツ語を「聞く」「話す」際の重要な要素である「音」や「発音」の仕組みについてお話し、皆さんときれいな、正しいドイツ語の発音とは何かを考えていきます。 秋学期はドイツ語で特徴的な子音を中心にお話します。		1. ドイツ語の母音と子音 2. 発音練習のタイプ (シャドウイング) 3. p 音、t 音、k 音 4. b 音、d 音、g 音 5. R 音、H 音 6. f 音、v 音ー b 音 7. sch 音 8. ch 音 9. 子音連結音 10. 鼻音 11. 音調 12. 発音と日常 13. 発音と日常 14. 発音規則 15. 復習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト I. Albrecht, U. Hirschfeld, Y. Kakinuma 『Deutsche Phonetik für japanische Studenten』 (『日本人のためのドイツ語発音コース』) 獨協大学外国語 教育研究所 2005 年 他		出席 (出欠・遅刻)、授業参加 (発音練習)、レポート 定期試験。また、5 回以上欠席の場合は履修中止とみなします。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の文学 a ドイツ文学各論 I	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 1 読書の楽しさを知ること。 2 日頃読む機会が少ないと思われるドイツの文学作品に親しむきっかけづくり。 3 ドイツ文学の各思潮を代表する詩人・作家の作品を通してドイツの民族性、精神性を理解すること。 講義概要： 前年につづいて「ドイツの短編小説」を取り上げる。 叙事文学には Roman(長編小説)と Novelle (短編小説)の形式がある。両者の違いは単に「長い」「短い」だけにとどまらない。語られる内容、語る形式が根本的に異なる。Novelle の語源となったラテン語の novella は法律用語で、既存の法典(ユスティニアヌス法典)に付け加えられた「新しいもの」、つまり補遺とか増補の意味であった。それがイタリア・ルネサンスにおいてはじめて固有の文学ジャンルとなり、ロマン文学に広まった。ドイツに本格的な短編小説が登場するのは 18 世紀末のことで、以来ロマンス語系諸国とは異なった独自の発展を遂げる。 本講では Novelle の歴史を概観し、Roman 形式との比較考察から Novelle とは何かを理解した上で、ドイツ文学における代表的な作家の作品を読み、解釈する。		昨年はゲーテ、シラー、クライスト、ケラー、ハウプトマンの作品を取り上げた。今年は引き続いて テオドール・シュトルム、フーゴ・フォン・ホフマンスタール、ゲオルク・ハイム、アルベルト・シュニッツラー、フランツ・カフカ、ローベルト・ムージル、トーマス・マンなどの作品を取り上げる予定(若干入れ替えもありうる)。テキストには邦訳を使用する。 第 1 週 授業の内容と方法の説明。 第 2 週 }Novelle の Vorgeschichte と Kunstform について 第 3 週 } 第 4 週 }作品鑑賞 第 14 週 第 15 週 予備 (まとめ)	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にプリントを配布。		平常点 (出席) に、レポートの結果を加味して総合的に判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の文学 b ドイツ文学各論 II	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる		春学期に準ずる	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にプリントを配布。		春学期に準ずる。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の文学 a ドイツ文学各論 I	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の文学作品の中から比較的有名な作品をいくつか選び、それぞれについて次のような 3 つのステップを踏んで検討して行く。 Step 1. 受講生の中で分担を決め、その作品（成立事情、粗筋など）、および、その作品を書いた作家について調べて報告してもらう。 Step 2. その作品の中から、ハイライトシーンと言えそうな個所をいくつか選び、ドイツ語の原文で味わってみる。 Step 3. その作品を映像化したもの、舞台化したものなどを、原作と比較しながら鑑賞してみる。 以上のように、「調べて、読んで、見る/聞く」作業を通して、「重くて、暗くて、難しい」と思われているドイツ語圏の文学を、少しでも身近に感じられるようになることを本講義の目的とする。 *注意）ドイツ語の原典を読む作業も含めて、受講生には能動的に授業に参加していただくつもりなので、それなりの覚悟を持って受講すること。		1. オリエンテーション。講義の進め方、評価方法などについての説明。Step 1, 2 に関する分担を決める。 2. 『ニーベルンゲンの歌』について調べる 3. 『ニーベルンゲンの歌』を読む 4. 『ニーベルンゲンの歌』を見る 5. グリム『白雪姫』について調べる 6. グリム『白雪姫』を読む 7. グリム『白雪姫』を見る 8. ホフマン『クルミ割り』について調べる 9. ホフマン『クルミ割り』を読む 10. ホフマン『クルミ割り』を見る 11. ケストナー『飛ぶ教室』について調べる 12. ケストナー『飛ぶ教室』を読む 13. ケストナー『飛ぶ教室』を見る 14. 予備日 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストに関しては、必要に応じてプリントを配布する。参考文献は、その都度指示する。		学期末に行う筆記試験（70%）と授業への参加度（毎回の出席、発表の担当などで 30%）を合わせて評価する。なお、欠席 5 回以上の者には単位を認めない。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の文学 b ドイツ文学各論 II	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、ドイツ語圏の文学作品の中から比較的有名な作品をいくつか選び、それぞれについて次のような 3 つのステップを踏んで検討して行く。 Step 1. 受講生の中で分担を決め、その作品（成立事情、粗筋など）、および、その作品を書いた作家について調べて報告してもらう。 Step 2. その作品の中から、ハイライトシーンと言えそうな個所をいくつか選び、ドイツ語の原文で味わってみる。 Step 3. その作品を映像化したもの、舞台化したものなどを、原作と比較しながら鑑賞してみる。 以上のように、「調べて、読んで、見る/聞く」作業を通して、「重くて、暗くて、難しい」と思われているドイツ語圏の文学を、少しでも身近に感じられるようになることを本講義の目的とする。 *注意）ドイツ語の原典を読む作業も含めて、受講生には能動的に授業に参加していただくつもりなので、それなりの覚悟を持って受講すること。		1. オリエンテーション。講義の進め方、評価方法などについての説明。Step 1, 2 に関する分担を決める。 2. エンデ『モモ』について調べる 3. エンデ『モモ』を読む 4. エンデ『モモ』を見る 5. マン『ヴェニスに死す』について調べる 6. マン『ヴェニスに死す』を読む 7. マン『ヴェニスに死す』を見る 8. グラス『ブリキの太鼓』について調べる 9. グラス『ブリキの太鼓』を読む 10. グラス『ブリキの太鼓』を見る 11. シュリンク『朗読者』について調べる 12. シュリンク『朗読者』を読む 13. シュリンク『朗読者』を見る 14. 予備日 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストに関しては、必要に応じてプリントを配布する。参考文献は、その都度指示する。		学期末に行う筆記試験（70%）と授業への参加度（毎回の出席、発表の担当などで 30%）を合わせて評価する。なお、欠席 5 回以上の者には単位を認めない。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の思想 a ドイツの思想 I	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりである。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。		1. はじめに 2. ギリシャ古典哲学の諸概念 3. ローマ・カトリックとプロテスタント 4. デカルトの思想 5. カントの思想(1) 6. カントの思想(2) 7. カントの思想(3) 8. ドイツ観念論(1) 9. ドイツ観念論(2) 10. ドイツ観念論(3) 11. ロマン派 12. マルクス(1) 13. マルクス(2) 14. (予備日) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席と期末テスト	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の思想 b ドイツの思想 II	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりである。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。		1. はじめに 2. キルケゴール 3. ニーチェ(1) 4. ニーチェ(2) 5. フロイト(1) 6. フロイト(2) 7. 現象学 8. ハイデガー(1) 9. ハイデガー(2) 10. ハイデガー(3) 11. ベンヤミン(1) 12. ベンヤミン(2) 13. フランクフルト学派(1) 14. フランクフルト学派(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席と期末テスト	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
日常的な、簡単なドイツ語文を例に取り、その中で使われる語句・表現などを使った練習を行います。言葉は理解しただけでは足りません。十分な練習を行い、記憶の定着を図らなければならないものと思います。 テーマはドイツ語そのものですので、ドイツ語に関心の薄い人には厳しい授業です。単位を取るのには難しいので、そういう人は敬遠しなければならない授業です。 人数が多いときめ細かなアドバイスや添削が出来ません。少人数の、全員参加の授業にしたいと考えています。「その他大勢」の陰に隠れてやり過ごそうという参加者はお断りします。 又正当な理由無く 5 回欠席した場合は単位は認めませんし、出席の回数は成績に反映されます。		1. 導入 2. 文例 1 とその練習 3. 文例 1 の小テスト。文例 2 とその練習 4. 文例 2 の小テスト。文例 3 とその練習 5. 文例 3 の小テスト。文例 4 とその練習 6. 文例 4 の小テスト。文例 5 とその練習 7. 文例 5 の小テスト。文例 6 とその練習 8. 文例 6 の小テスト。文例 7 とその練習 9. 文例 7 の小テスト。文例 8 とその練習 10. 文例 8 の小テスト。文例 9 とその練習 11. 文例 9 の小テスト。文例 10 とその練習 12. 文例 10 の小テスト。文例 11 とその練習 13. 文例 11 の小テスト。文例 12 とその練習 14. 文例 12 の小テスト。文例 13 とその練習 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計し、出席点を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
日常的な、簡単なドイツ語文を例に取り、その中で使われた語句・表現などを使った練習を行います。言葉は理解しただけでは足りません。十分な練習を行い、記憶の定着を図らなければならないものと思います。 テーマはドイツ語そのものですので、ドイツ語に関心の薄い人には厳しい授業です。単位を取るのには難しいので、そういう人は敬遠しなければならない授業です。 人数が多いときめ細かなアドバイスや添削が出来ません。少人数の、全員参加の授業にしたいと考えています。「その他大勢」の陰に隠れてやり過ごそうという参加者はお断りします。 又正当な理由無く 5 回欠席した場合は単位は認めませんし、出席の回数は成績に反映されます。		1. 導入 2. 文例 1 とその練習 3. 文例 1 の小テスト。文例 2 とその練習 4. 文例 2 の小テスト。文例 3 とその練習 5. 文例 3 の小テスト。文例 4 とその練習 6. 文例 4 の小テスト。文例 5 とその練習 7. 文例 5 の小テスト。文例 6 とその練習 8. 文例 6 の小テスト。文例 7 とその練習 9. 文例 7 の小テスト。文例 8 とその練習 10. 文例 8 の小テスト。文例 9 とその練習 11. 文例 9 の小テスト。文例 10 とその練習 12. 文例 10 の小テスト。文例 11 とその練習 13. 文例 11 の小テスト。文例 12 とその練習 14. 文例 12 の小テスト。文例 13 とその練習 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計し、出席点を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung lesen wir authentische deutsche Texte, die den sprachlichen Alltag in Deutschland behandeln. Insbesondere Mehrsprachigkeit und konkreter Sprachgebrauch stehen im Mittelpunkt unseres Interesses. Texte werden in der Veranstaltung ausgegeben. Wir lesen und besprechen die Texte dann gemeinsam. Neben inhaltlichen Diskussionen zum Textinhalt beschäftigen wir uns auch mit Wortwahl und Textstil. Aktive Mitarbeit und Interesse an dem Themenkomplex „sprachlicher Alltag in Deutschland“ sind Voraussetzung zur Teilnahme an dieser Übung. Ich freue mich schon sehr, diesen Themenkomplex mit Ihnen zu diskutieren.		1. Einführung in das Thema 2. Mehrsprachigkeit in Deutschland 3. Autochthone Sprachen 4. Allochthone Sprachen 5. Bilingualismus 6. Code-switching 7. Sprache und Alter 8. Sprache und alternde Gesellschaft 9. Sprache und Region I 10. Sprache und Region II 11. Sprache und Region III 12. Sprachwandel 13. Sprachwechsel I 14. Sprachwechsel II 15. Diskussion und Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textkopien werden in der Veranstaltung ausgegeben.		Teilnahme Aktive Mitarbeit Klausur am Semesterende	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung lesen wir authentische deutsche Texte, die den sprachlichen Alltag in Deutschland behandeln. Insbesondere Mehrsprachigkeit und konkreter Sprachgebrauch stehen im Mittelpunkt unseres Interesses. Texte werden in der Veranstaltung ausgegeben. Wir lesen und besprechen die Texte dann gemeinsam. Neben inhaltlichen Diskussionen zum Textinhalt beschäftigen wir uns auch mit Wortwahl und Textstil. Aktive Mitarbeit und Interesse an dem Themenkomplex „sprachlicher Alltag in Deutschland“ sind Voraussetzung zur Teilnahme an dieser Übung. Ich freue mich schon sehr, diesen Themenkomplex mit Ihnen zu diskutieren.		1. Einführung in das Thema 2. Mehrsprachigkeit in Deutschland 3. Autochthone Sprachen 4. Allochthone Sprachen 5. Bilingualismus 6. Code-switching 7. Sprache und Alter 8. Sprache und alternde Gesellschaft 9. Sprache und Region I 10. Sprache und Region II 11. Sprache und Region III 12. Sprachwandel 13. Sprachwechsel I 14. Sprachwechsel II 15. Diskussion und Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textkopien werden in der Veranstaltung ausgegeben.		Teilnahme Aktive Mitarbeit Klausur am Semesterende	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1 十分なドイツ語文章の読解力を身につける。 2 論理的思考力を鍛える。 3 関連知識を広げる。 4 明確な問題意識を持ち、自己の意見形成に努める。 講義概要 Immanuel Kant: Zum ewigen Frieden (1795) を読み進める。 晩年のカントは世界の恒久的平和を念じて本書を執筆、その実現に向けていろいろな具体的提言を行なっているが、残念ながら現実はそれらとことごとく異なることがわかるだろう。ならば「永遠平和」論は机上の空論に過ぎないのか。本書はそれがたんなる絵空事ではないことの論拠を示すとともに、その正当性を論証する平和論の古典的名著であり、まずはそれを熟読し、戦争と平和という、この古くてつねに新しい問題について考えるきっかけとしたい。		各自分担を決めて発表してもらおうが、そのばあい勝手に表面的な訳読にとどまるのではなくて、使用される術語、概念の意味を明らかにし、言及される関連事項を精査したうえで、記述内容の的確な把握に努める。 テキストは必ずしもやさしいとは言えないが、誰しも関心のある身近な問題であり、理解にさほど困難はないだろう。 第1週 授業方針の説明。 第2週 } 本文を読み進める 第14週 第15週 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回にプリントを配布する予定。		平常点（出席＋発表）に、小テスト、レポートの結果を加味して総合的に判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen, usw. Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Statistiken... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes.		1. Stunde: Einführung, Allgemeines 2. - 6. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke. 7. Stunde: Zusammenfassung zum bisher Gelesenen 8. - 14. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten und Statistiken. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke. 15. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Abschlusstest	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen, usw. Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Statistiken, ... Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen: - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes.		1. Stunde: Einführung, Allgemeines 2. - 6. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke. 7. Stunde: Zusammenfassung zum bisher Gelesenen 8. - 14. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten und Statistiken. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke. 15. Stunde: Test zu den besprochenen Texten	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する		Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Abschlusstest	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
Friedrich Nietzsche(1844 -1900)の Also sprach Zarathustra からその序説 Zarathustra's Vorrede を読みます。 先人にたくさんの翻訳もありますが、講読の時間として、丹念に原文に当たります。文体は古風ですが、そのリズムと豊穡な語彙に触れ、皆さんがそのドイツ語力を磨く機会になればと思います。		1. ガイダンス 2. ～15. 順次読み進めます。 16. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは Web からダウンロードして下さい。 村井 則夫著『ニーチェツァラトゥストラの謎』（中公新書）		定期試験 60%、通常授業における発表や貢献度を 40% とし評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続き、F.Nietzsche の Also sprach Zarathustra を読み進めます。 先人にたくさんの翻訳もありますが、講読の時間として、丹念に原文に当たります。文体は古風ですが、そのリズムと豊穡な語彙に触れ、皆さんがそのドイツ語力を磨く機会にしたいと思います。 今学期は読解の技法にも配慮します。		1. ガイダンス 2. ～15. 順次読み進めます。 16. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは Web からダウンロードして下さい。 村井 則夫著『ニーチェツァラトゥストラの謎』（中公新書）		定期試験 60%、通常授業における発表や貢献度を 40% とし評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
Thomas Mann（1875－1955）の短篇小説 <i>Mario und der Zauberer</i>（1930）を読みつつ、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。春学期は、前半部を扱い、この 20 世紀最大の長編小説作家の散文を正確に読み解くことを目指します。 授業中行うのはテキストの精読です。毎回 2 ページ程度の予習範囲を指定します。訳読の分担はしません。受講生は毎回全員予習をして授業に臨んでください。		第 1 回 ガイダンス ※ 受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。いかなる理由によっても、第 1 回目の授業を欠席した場合には平常点(20 点満点)から 5 点分を差し引きます。 第 2 回～作品講読	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー教材を第 1 回の授業時に一括配布予定。 必携辞書：『小学館 独和大辞典』		授業内テスト 3 回（8 割）、平常点（2 割）を目安に、総合的に評価する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	山口 祐子
講義目的、講義概要		授業計画	
Thomas Mann（1875－1955）の短篇小説 <i>Mario und der Zauberer</i>（1930）を読みつつ、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。秋学期は、前学期の続きから読み進めます。あわせて、今学期は作品成立前後の時代状況についても考えてみましょう。 授業中行うのはテキストの精読です。毎回 2 ページ程度の予習範囲を指定します。訳読の分担はしません。受講生は毎回全員予習をして授業に臨んでください。		第 1 回 ガイダンス ※ 受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。いかなる理由によっても、第 1 回目の授業を欠席した場合には平常点(20 点満点)から 5 点分を差し引きます。 ※※ 春学期からの継続的な受講をすすめます。秋学期からの受講希望者は、春学期の講読部分を予め読んでおくことが必要です。 第 2 回～ 作品講読（状況に応じて二次文献の講読）	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー教材（春学期の続き）を使用する予定です。 必携辞書：『小学館 独和大辞典』		授業内テスト 3 回（8 割）、平常点（2 割）を目安に、総合的に評価する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
日本とドイツの社会には、環境問題や少子高齢化の問題など共通したアクチュアルな課題があります。こうした問題に関するドイツでの議論を読みながら、日独の社会に関する考え方の共通点と相違を考えたいと思います。 同時に、ドイツ語で書かれた知的なテキストを理解するのに必要な文章構造、語彙、文体などを学ぶことも、この授業の目標です。 授業の進め方としては、毎月ひとつのテーマを選んで、これに関するテキストを読みますが、これと平行して、ドイツのインターネットなどから、さらなる情報を集めて発表してもらいます。		1. 簡単なテキストを用意して、知的なテキストを理解するには、どのような点に注意が必要かを考える。 （2 回目以降のテキストのテーマは以下の通り） 2～5. 「環境」 6～9. 「少子高齢化」 10～14. 「教育」 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
雑誌記事や単行本の一部から、コピーを用意します。		ふだんの授業への準備と参加姿勢、および筆記試験によって評価。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は春学期とほぼ同じで、知的なテキストを読むのに必要なツール（文章構造などの語学的側面、背景知識などの社会・文化的側面）を学び、それを自分のものにすることを目指します。 テキストは、複数の本から選び少しまとまりのある章を選んで、その背後にある考え方などにも考察を巡らせたいと思います。 できれば、日本で同じようなテーマをどう扱っているかレポートしてもらい比較してみようと考えています。意識的に比較することは、内容を生き生きと理解するために大切な作業です。		最初の 2 回は、テキストにあたりながら読み方の基本を（再び）取り上げます。 その後は、以下のテーマを取り上げる予定です。 3～6. 「家族」 7～10. 「若者」 11～14. 「外国人」 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のように、テキストはコピーして配布します。		ふだんの授業への準備と参加姿勢、および筆記試験によって評価。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 主に短い現代の文学作品を取り上げて、作品の全体像を読み取り、そこに取り上げられている題材、テーマ、構成について一緒に考えていきます。また、これを通じてドイツ語の読解力がつくよう、単語や表現の背景やコノテーションについても学びましょう。 受講者は、かならず前もって読んできてください。 概要 春学期は、じっくり読むことを中心に進めるつもりですが、受講者の顔ぶれとドイツ語の習熟度を見ながら、徐々にスピードを上げていきます。		1. 実例で読み方、準備の仕方を説明。 2. 実例で読み方、準備の仕方を説明。 3～8. 10 ページ程度の短編を 2 回程度で読む 9～14. 少し長めのテキストを読む 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前もってプリントして配布します。		授業への準備を加味しながら、学期末に試験をする（辞書持込可）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 基本的には、春学期と同じ趣旨で行います。 概要 秋学期は、「速読」の要素をくわえて、まずは作品の全体像を捉えることを目指し、それを徐々に細かく理解する練習をします。そのなかで全体と細部の関係を考えていきましょう。 慣れるまで予習は多少は大変かもしれませんが、文学作品にかぎらず大事な練習です。実際には、受講者の様子を見ながら、スピードを決めていきますから、心配することはありません。		1. 実例で、授業の進め方と準備を説明。 2. 実例で、授業の進め方と準備を説明。 3～8. 短めのテキストをなるべく大量に読む 9～14. 長めのテキストをなるべく大量に読む 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前もってプリントして配布します。		授業への準備を加味しながら、学期末に試験をする（辞書持込可）	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 a ドイツ文化史概論 I	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ語圏芸術・文化のルーツと特質 3 中世 4 同上 5 ルネサンス・宗教改革期 6 同上 7 三十年戦争・バロック期 8 同上 9 啓蒙主義時代 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 グリムのメルヒェン 14 同上 15 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 b ドイツ文化史概論 II	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 同上 11 ナチズムと芸術 12 同上 13 現代へ：新たな芸術の展開 14 同上 15 まとめ	
講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 a ドイツの美術 I	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は大きな西洋美術史の流れの中で、ドイツ語圏の美術がどのような特質を持つのかを知る事を目標としています。 ドイツの美術は西洋美術史の中で主導的な立場にあった時期はごくわずかで、常にイタリア、フランス、オランダ美術の影響を受けてきました。この授業ではゴシック時代の建築、彫刻、絵画を中心に、ドイツの美術のさまざまな様式的特徴をとらえることを目標とします。		1. オリエンテーション 2. ドイツのゴシック美術とは 3. 同② 4. 同③ 5. 同④ 6. ゴシック彫刻の魅力 7. 同② 8. ゴシック絵画の魅力 9. 同② 10. 同③ 11. 同④ 12. 周辺国のゴシック美術 13. 同② 14. 同③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		評価方法：平常授業における課題（授業内に描いてもらうディスクリプション）の提出ならびに期末に提出してもらうレポートの結果で判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 b ドイツの美術 II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、西洋美術の大きな流れから見たドイツ美術の特質を考えます。ドイツ美術は、ドイツ・ルネサンスの創始者であるアルブレヒト・デューラー（1471-1528）の登場をもって大きく展開します。 今学期は、デューラーの「メレンコリア I」という作品を主に取り上げ、この作品がどのように今日まで解釈され、どのような図像伝統を持つ作品なのかを探ってゆきます。		1. オリエンテーション 2. デューラーの芸術 3. 同② 4. 同③ 5. メランコリアの図像伝統 6. 同② 7. 同③ 8. 同④ 9. 同⑤ 10. 同⑥ 11. 同⑦ 12. デューラーの「メレンコリア I」 13. 同② 14. 同③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する		春学期に準ずる	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の音楽 a ドイツの音楽 I	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。 春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品を取りあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. J. ハイドンの音楽 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. W. A. モーツァルトの声楽作品 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の音楽 b ドイツの音楽 II	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。 秋学期には、18 世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。 秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品を取りあげることが予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト（2011 年が生誕 200 周年です） 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派（マーラーは 2011 年が没後 100 周年です） 11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏の国歌 13. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の演劇 a ドイツの演劇 I	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は、かなりの駆け足になりますが、ドイツ語圏の演劇の歴史を 20 世紀の初めまで辿ります。ドイツ語圏の演劇は、教会の儀式から発展した宗教劇、ハンス・ザックスの謝肉祭劇、17 世紀のイギリス喜劇団のドイツ旅回り上演に起源をもつ民衆劇、フランスの影響を受けた古典劇、ドイツ国民劇を経て、19 世紀後半からは社会との結びつきや新たな演劇手法の開拓などを通じて独自の発展を遂げます。 こうしたドイツ語圏の演劇の歴史を振り返って、演劇の多様性を知り、演劇と社会とのつながりを考えていきたいと思います。 必要に応じて、戯曲の一部を読んだり（ドイツ語あるいは翻訳）、映像素材を使ったりする予定です。		1. 演劇とは？ 2. 演劇史の大きな流れ 3. 宗教劇 4. 謝肉祭劇（1） 5. 謝肉祭劇（2） 6. イギリス喜劇団とその影響 7. 国民文化・国民演劇への動き 8. レッシング 9. ゲーテとシラー（1） 10. ゲーテとシラー（2） 11. オペラの発達（1） 12. オペラの発達（2） 13. 近代劇への動き（1） 14. 近代劇への動き（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介します。		授業で取り上げたテーマに関して、自分で調べたり戯曲を分析したりしてレポートにまとめてもらい、それに出席状況を加味して評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の演劇 b ドイツの演劇 II	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、主として自然主義演劇以降のドイツ語圏の演劇を取り上げます。一方では、近代から現代の演劇に革新をもたらした試みを中心に上げます。また、「ドイツ語圏」ということで、ドイツとは方向を違えながらもドイツに影響を与えたオーストリアやスイスの演劇も紹介していきます。 必要に応じて、戯曲の一部を読んだり（ドイツ語あるいは翻訳）、映像素材を使ったりする予定です。		1. 近代から現代への概観 2. 自然主義の演劇（1） 3. 自然主義の演劇（2） 4. 表現主義の演劇（1） 5. 表現主義の演劇（2） 6. ブレヒト（1） 7. ブレヒト（2） 8. ブレヒト（3） 9. オーストリアの演劇 — 民衆劇 10. オーストリアの演劇 — 音楽劇 11. オーストリアの演劇 — 世紀末演劇 12. スイスの演劇（1） 13. スイスの演劇（2） 14. 現代劇へ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介します。		授業で取り上げたテーマに関して、自分で調べたり戯曲を分析したりしてレポートにまとめてもらい、それに出席状況を加味して評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 a ドイツ思想・芸術各論 I	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じて伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により広く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近では個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思いつかない人もいるかもしれませんが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？（１） - 文化とは何か？（２） - コミュニケーションとその手段（１） - コミュニケーションとその手段（２） - 科学・技術の発達と文化への影響（１） - 科学・技術の発達と文化への影響（２） 「実物」文化 - 記録文化と記録・通信メディア - 絵画から映画へ - 音楽の宗教・芸術から大衆文化への変遷 - 漫画からアニメーションへ - LDからDVDへ - インターネットの普及 「ネット動画」など、狭義のメディア文化 - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容の変更があるかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 b ドイツ思想・芸術各論 II	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じて伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により広く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近では個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思いつかない人もいるかもしれませんが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？ - コミュニケーションとその手段 - 科学・技術の発達と文化への影響 - 実物文化と記録文化 - 記録・通信手段のメディアの発達 - 音楽の大衆化 - 静止画から動画へ - 演劇からラジオドラマへ - 歌劇・楽劇からミュージカルへ - 無声映画からトーキーへ - 映画からアニメーションへ - ドイツ映画 - ドイツ語のアニメーション - ドイツ語のアニメーション(続き) - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容の変更があるかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Deutschsprachige Musikstädte und ihre Komponisten Unter den deutschsprachigen Städten gibt es viele Musikstädte, manche von diesen Städten werden gleichsam automatisch mit einem ganz bestimmten Komponisten verbunden: Leipzig z. B. mit Johann Sebastian Bach und Salzburg mit Wolfgang Amadeus Mozart. Bei anderen Städte, wie etwa Wien, fallen einem gleich eine ganze Reihe an wichtigen Komponisten ein: Haydn, Mozart, Beethoven, Schubert, Brahms oder Mahler. In diesem Kurs sollen einige Musikstädte und ihre Komponisten sowie deren Werke vorgestellt werden. Dafür beschäftigen wir uns jeweils mit einem einführenden Text zu der Musikstadt und danach mit einem weiteren Text zu einem für die Stadt repräsentativen Komponisten. Außerdem können Sie von jedem Komponisten wichtige Werke kennenlernen (CD oder DVD).		1: Einführung 2-5: Leipzig und Johann Sebastian Bach 6-9: Salzburg und Wolfgang Amadeus Mozart 10-12: Zürich und Richard Wagner 13-15: München und Richard Strauß	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Wintersemester wird der Kurs fortgesetzt. Siehe den einführenden Text zum Sommersemester.		1: Einführung 2-5: Wien und Ludwig van Beethoven 6-9: Dresden und Robert Schumann 10-12: Weimar und Franz Liszt 13-15: Düsseldorf und Felix Mendelssohn Bartholdy	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
„Jugendstil“ テキスト：下記のテキストでは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての「世紀転換期」にヨーロッパ全土にわたり展開された応用芸術における様式の革新運動であるユグェントスティーレ（＝アール・ヌーヴォー）について書かれている。 概要：11 章に分かれており、これをほぼ 1 章ずつ講読していく。 目的：長文読解の能力を高めると共に、ドイツ語圏の芸術（この場合は現代美術史）に対する理解を深める。		1. 導入：「世紀末」の芸術運動 2. Einzigartigkeit des Jugendstils 3. Das Hauptmerkmal des Jugendstils 4. Das <i>Ornament</i> 5. Der japanische Farbholzschnitt als Vorbilder 6. 理解度確認テストと解説(1) 7. Jugendstil als eine angewandte Kunst 8. Jugendstil als ein epochales Phänomen 9. Die Entdeckung der pflanzlichen Organismus als Ornament 10. „Intuition“ als das Schlüsselwort der Epoche 11. „Jugend“ als immer währender Frühling 12. Die Rechtfertigung des Fleisches 13. Die Emanzipation der Sinne 14. Qualität von Werken 15. 理解度確認テストと解説(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dorf Sternberger: Jugendstil. In: Dorf Sternberger: <i>Über den Jugendstil und andere Essays</i> . Classen Verlag 1956		2 回以上欠席した者はそれ以降の出席・受験を認めない。授業期間中に行う 2 回の理解度確認テストおよび期末試験での成績に応じて 90%=AA、80%=A、70%=B をあたえる。それ以下のものは F とする。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
Geschichte der Malerei im 20. Jahrhundert テキスト：下記のテキストは、20 世紀の前半に全ヨーロッパにおいて展開された主要な芸術運動を通史的に論述している。この中から特にドイツの諸都市で展開された 20 世紀初頭の芸術運動の部分を読む。 概要：テキストを順次講読する。 目的：長文読解の能力を高めると共に、20 世紀初頭の芸術運動について最低限の知識を習得すること。		1. 導入 Expressionismus 2. Die “Brücke” 3. „Der Blaue Reiter“ 4. Expressionismus im Rheinland 5. Expressionismus in Norddeutschland 6. Berlin und „Sturm-Expressionismus“ 7. 理解度確認テストと解説(1) 8. Expressionismus in Österreich 9. Expressionismus in Belgien und den Niederlanden 10. Expressionismus in anderen Ländern 11. Bauhaus 12. Dadaismus 13. Neue Sachlichkeit und Magischer Realismus 14. Neoklassizismus und Klassischer Realismus 15. 理解度確認テストと解説(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Horst Richter: Geschichte der Malerei im 20. Jahrhundert. Stile und Künstler. Dumont Taschenbücher 1979		2 回以上欠席した者はそれ以降の出席・受験を認めない。授業期間中に行う 2 回の理解度確認テストおよび期末試験での成績に応じて 90%=AA、80%=A、70%=B をあたえる。それ以下のものは F とする。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの芸術・文化に関するエッセイを原文で読んでいきたいと思います。具体的には、20 世紀の批評家ヴァルター・ベンヤミンのテキストを扱いたいと思います。原文は少し難しいのですが、翻訳を参考にしてもらっても結構です。写真や映画といった、いわゆる複製芸術をテーマにしますが、「視覚的無意識」などという言葉ベンヤミンが使う場合もあるので、フロイトのテキストなども扱うことがあるかもしれません。また、ベンヤミンの言っていることと比較対象として、ハイデガーの芸術論なども扱うかもしれません。 テキストをコツコツと読んでいくつもりなので、つきあってくれる学生の参加を希望します。		1. テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		発表と期末テスト、平常点を付加	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの芸術・文化に関するエッセイを原文で読んでいきたいと思います。具体的には、20 世紀の批評家ヴァルター・ベンヤミンのテキストを扱いたいと思います。原文は少し難しいのですが、翻訳を参考にしてもらっても結構です。写真や映画といった、いわゆる複製芸術をテーマにしますが、「視覚的無意識」などという言葉ベンヤミンが使う場合もあるので、フロイトのテキストなども扱うことがあるかもしれません。また、ベンヤミンの言っていることと比較対象として、ハイデガーの芸術論なども扱うかもしれません。 テキストをコツコツと読んでいくつもりなので、つきあってくれる学生の参加を希望します。		1.テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		発表と期末テスト、平常点を付加	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、「音楽の父」とも呼ばれる J. S. バッハ（1685～1750）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読みます。受講者人数にもよりますが、バッハが暮らした都市について、その都市で作曲した作品について等の研究発表（グループ発表）をしてもらうこともあります。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。		1. オリエンテーション、導入 2. Leben und Werk J. S. Bachs 3. Leben und Werk J. S. Bachs 4. Eisenach 5. Eisenach 6. Arnstadt 7. Arnstadt 8. Mühlhausen 9. Mühlhausen 10. Mühlhausen 11. Weimar 12. Weimar 13. Weimar 14. Weimar 15. まとめ 上記の予定は、みなさんの関心や進捗等に応じて変更することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、皆さんと一緒に考えたいと思います。 この授業では、「音楽の父」とも呼ばれる J. S. バッハ（1685～1750）の生涯と作品に関する文献をコピーで配布して読みます。受講者人数にもよりますが、バッハが暮らした都市について、その都市で作曲した作品について等の研究発表（グループ発表）をしてもらうこともあります。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もありますので、予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：①毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。②春学期と連続した内容の文章を読みます。春学期に学習したバッハの生涯や作品等についての基礎知識をもっていることを前提として授業を進めますので、なるべく通年で受講してください。		1. オリエンテーション、春学期の内容の復習 2. Köthen 3. Köthen 4. Köthen 5. Köthen 6. Leipzig 7. Leipzig 8. Leipzig 9. Leipzig 10. Leipzig 11. Leipzig 12. Leipzig 13. Bach-Rezeption 14. Bach-Rezeption 15. まとめ 上記の予定は、みなさんの関心や進捗等に応じて変更することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究 （芸術・文化） a ドイツ語講読 （芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期は、前年度秋学期に取り組んだブレヒトの教育劇『例外と原則』の後半部を読了したいと思います。 ブレヒトは 1928 年『三文オペラ』の大ヒットの後、「教育劇」と呼ばれるいくつかの作品を著しています。市民社会を挑発する姿勢から社会（観客）の啓蒙、教化へと向かおうとする時期の作品と言われています。これらの劇は分かりやすいストーリー展開を見せながらも、登場人物の思い込みや意志の強さはわれわれの感性とは違ったものに感じられるかもしれません。この単純なストーリー展開や人物造形といった点に観客（読者）は自由に反応してよく、それこそが観る者に考えさせようとしたブレヒトの意図なのです。 この作品の後には一番の人気作『肝っ玉母さん』や最高傑作といわれる『セチュアンの善人』などの一部も取り上げてみたい。 広く芸術に興味のある人達の積極的な参加を希望します。		1.～2. オリエンテーション。作者、作品等の解説。作品前半部分の説明。 3.～7. 作品後半部。 8.～14. ブレヒトの他作品。 毎回テキスト部 2 ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。 15. まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は授業中に指示します。		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究 （芸術・文化） b ドイツ語講読 （芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
引き続き戯曲を読んでいきたい。ブレヒト劇を継続し、場合によっては時代をさかのぼりクライスト『壊れ甕』などを考えています。		1. オリエンテーション。作者、作品等の解説。 2.～14. 毎回テキスト部 2 ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。 15. まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は授業中に指示します。		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「グッバイ、レーニン！」(2003 年) のシナリオ（一部）を読み、それを映画の中の言語、文化、背景等と比較する。 2) 映画を通してドイツ再統一の意義を考察する。 3) 映画とシナリオを通して生きたドイツ語及び構文解析を習得する。 講義概要 1989 年 11 月 9 日にベルリンの壁が崩壊し、翌年 1990 年 10 月 3 日にドイツは再統一された。壁崩壊を前後とする激動する東欧及び西欧社会をとりまく政治的、経済的、社会的状況等を背景に 2000 年代初頭に製作された映画「グッバイ、レーニン！」は再統一の意義を改めて問う作品にもなった。また、昨年 2010 年は再統一 20 周年目の節目を迎えたが、製作当時の様々な状況は進展したのか、後退したのか、停滞のままなのかを、映画「グッバイ、レーニン！」をキーワードに皆さんと考察してみたい。 (尚、講義中の無断退出、飲食は厳禁です。)		1. ガイダンス（講義の概要、テキスト、評価方法等について） 2. ドイツ映画「グッバイ、レーニン！」(2003 年) 観賞 (1) 3. ドイツ映画「グッバイ、レーニン！」(2003 年) 観賞 (2) 4. シナリオの講読及びテキスト研究 (1) 5. シナリオの講読及びテキスト研究 (2) 6. シナリオの講読及びテキスト研究 (3) 7. シナリオの講読及びテキスト研究 (4) 8. シナリオの講読及びテキスト研究 (5) 9. シナリオの講読及びテキスト研究 (6) 10. シナリオの講読及びテキスト研究 (7) 11. シナリオの講読及びテキスト研究 (8) 12. シナリオの講読及びテキスト研究 (9) 13. シナリオの講読及びテキスト研究 (10) 14. シナリオの講読及びテキスト研究 (11) 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> Michael Töteberg (Hrsg.): <i>GOOD BYE, LENIN! Ein Film von Wolfgang Becker. Drehbuch von Bernd Lichtenberg.</i> Schwarzkopf & Schwarzkopf Verlag Berlin 2003 (コピーを配布) <参考文献> 講義時に紹介。		担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「善き人のためのソナタ」(2006 年) のシナリオ（一部）を読み、映画の中の言語、文化、背景等と比較する。 2) 映画を通して「監視国家としての東ドイツ」及び「人間の良心」を考察する。 3) 映画とシナリオを通して生きたドイツ語及び構文解析を習得する。 講義概要 1989 年 11 月 9 日にベルリンの壁が崩壊し、翌年 1990 年 10 月 3 日にドイツが再統一されて以来、監視国家としての旧東ドイツの実態、及びそれに関する機密文書類の存在が徐々に明らかになってきた。映画「善き人のためのソナタ」はそうした資料や関係者の体験等に基づいて製作された。この映画を通して当時の東ドイツの状況ならびに映画のテーマでもある「人間の良心」について皆さんと考察してみたい。 (尚、講義中の無断退出、飲食は厳禁です。)		1. ガイダンス（講義の概要、テキスト、評価方法等について） 2. ドイツ映画「善き人のためのソナタ」(2006 年) 観賞 (1) 3. ドイツ映画「善き人のためのソナタ」(2006 年) 観賞 (2) 4. シナリオの講読及びテキスト研究 (1) 5. シナリオの講読及びテキスト研究 (2) 6. シナリオの講読及びテキスト研究 (3) 7. シナリオの講読及びテキスト研究 (4) 8. シナリオの講読及びテキスト研究 (5) 9. シナリオの講読及びテキスト研究 (6) 10. シナリオの講読及びテキスト研究 (7) 11. シナリオの講読及びテキスト研究 (8) 12. シナリオの講読及びテキスト研究 (9) 13. シナリオの講読及びテキスト研究 (10) 14. シナリオの講読及びテキスト研究 (11) 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> Florian Henckel von Donnersmarck: <i>Das Leben der anderen. Filmbuch.</i> Suhrkamp Verlag Frankfurt am Main 2006 (コピーを配布) <参考文献> 講義時に紹介。		担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
20世紀初めの画家 Paula Modersohn-Becker を題材にして、さまざまなテキストへのアプローチ方法を学んでいきます。また和訳を中心にした文献講読だけではなく、特定のテーマについての口頭発表(Referat)、それに基づく質疑応答や議論も行い、多角的な視点からメインテーマの分析を進めていきます。 授業の目的には、いわゆるアカデミック・スキルズと称される、研究のための技術の習得もあります。ノートや発表のまとめ方、年表やキーワードノートなど、考察に必要な技術やツールを使い、大学生として自立した学びができるようになることを目指します。 春学期は 31 歳の若さで亡くなった画家についての基本的な情報や、彼女が生きた時代背景、創作活動の拠点であったブレーメン近郊のヴォルプスヴェーデなどについてリサーチを行い、Paula Modersohn-Becker の人物像を明らかにしていきます。		1. 授業のテーマの説明と進め方について 2. Paula Modersohn-Becker について 3. アカデミック・スキルについて 4. Referat (発表)1: 「初期表現主義について」 5. 19 世紀末から 20 世紀初頭のドイツ 6. Referat 2: 「Worpswede について」 7. Referat 3: 「Künstlerkolonie について」 8. Worpswede と Künstlerkolonie 9. Worpswede と Künstlerkolonie 10. Referat 4: 「Otto Modersohn について」 11. 20 世紀初頭のパリ 12. 収集情報の整理とキーワードノートの作成 13. テキストタイプとアプローチ 14. 情報の活用方法 15. Paula Modersohn-Becker の作品について	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はプリントで配布します。参考文献等については初回の授業で案内します。		出席状況を含む授業への参加度、Referat 等の課題への関与、その他授業中に紹介するスキルの習得度で評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の授業でリサーチした結果を下敷きにして、評伝や日記、手紙などのテキストを読みながら、より詳細な情報を収集していきます。 春学期に紹介したスキルを使って、読んだ情報を活用できるように整理していきます。外国語からの翻訳作業は、言葉の置き換え作業ではなくて、分析と考察を伴う情報収集活動であることを体験してもらうことを目指します。 特にドイツ語の意味をより正確に知るために欠くことができない独辞典などのレファレンス類の基本的な知識と使い方も学んでいきます。		1. 授業計画、発表の分担、Paulas Biografie (1) 2. Paulas Biografie (2) 3. Paulas Biografie (3) 4. Paulas Biografie (4) 5. Aus dem Tagebuch (1) 6. Aus dem Tagebuch (2) 7. Aus dem Tagebuch (3) 8. Briefe von Paula (1) 9. Briefe von Paula (2) 10. Leben im Paris (1) 11. Leben im Paris (2) 12. Paula und die Künstlerinnen um 1900 (1) 13. Paula und die Künstlerinnen um 1900 (2) 14. Worpswede in Bildern 15. テキスト研究のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はプリントで配布します。		出席状況を含む授業への参加度と発表内容をもとにして評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義主題：「主観性の世界と芸術作品の根源」 ーフッサールとハイデガーの対話から 講義概要： リスクを予感できない世代だとされる今日、迫るリスクを的確に予知し、ブレイクするモノの働きを自分の感性で捉え、チャンス（可能性）を手堅くキャッチする技法を学ぶ。 本年度は、手始めにジンメル（シンメトリー論）・リップス（感情移入論）・シェーラー（共感論）を比較参照し、最後にフッサール現象学の立脚点と陥穽を見破り、それぞれに抜粋したテキストからピンポイントで概観する。その上でフッサールとハイデガーの師弟間で交わされた対話の台本、ハンス・ライナー・ゼップの『（死の）暗影に包まれた国』（Schattenreich）を講読する。原本はフランス語だが、ドイツ語訳で読み合わせる。 テキスト研究の目標は、ハイデガーの『芸術作品の根源』（Ursprung des Kunstwerkes）が自在に読めるようになること。これにより、ジンメルやリップスの美学では到底及ばない、フッサールでさえ気づかなかった、現存在を脅かすリスク（ゾルゲ）を理解し、啓蒙主義文化が行き着いた「文化の悲劇」（ジンメル）や「メランコリー（憂鬱）の世界」（レペニース）を慎重に見極め、その因果関係を見届けることで、今日のグローバルメディア世界に要請される、「諒解ゲマインシャフト関係」（ヴェーバー）のルートを解明しつつ、芸術文化のブレイクポイントに迫る。		① 人格性の文化と芸術、美学上の定義と社会的課題（概念の定義と主題への導入講義） ② ジンメル美学の「シンメトリー論」（Synmetorie, Auszüge） ③ リップス美学の「感情移入論」（Einführung, Auszüge） ④ シェーラーの社会的「共感論」（Sympathie, Auszüge） ⑤ フッサールの美学との接点、「終わりの産物」（Endprodukt）としての「超越論的主観性」と、「間主観性」の行方 ⑥ ゼップの『（死の）暗影に包まれた国』（Schattenreich、以下「影の国」）、台本の成り立ちと対話の原風景について ⑦ ～⑫ フッサールとハイデガーの対話、「影の国」テキスト研究、計10回。現存在のリスクとブレイクポイントとしての時間論 ⑬ 啓蒙主義・合理主義文化のリスクとブレイクポイントを振り返り総括する。ハイデガー編集の『ブリタニカ草稿』他を参照し、解法の糸口を探る。 * 番号は授業回数でなく論理番号 ②から④まではMS Power Point 使用 * 必要に応じて講義を付し、個別に論文指導することも可能。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読テキスト：（メインのテキストのみ、二次資料は抜粋のコピーを手渡す。参考書は授業内に指示） Hans Rainer Sepp, “Schattenreich / Reino de sombras” (Husserl und Heidegger über die Zeit, das Leben und den Tod). フランス語とドイツ語の対訳本		講義への出席と演習への積極的参加が前提、就職活動で欠席がちな卒業年度の学生には、自発的なレポートをお薦めしている。3年生にはレポートは必須、4年生のレポートは自主性に任せ、成績については専ら自己評価を申告してもらっている。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。但し、メインのテキストが変わるので注意すること。秋学期はゼップの“Schattenreich”の継続ではなく、ハイデガーの“Ursprung des Kunstwerkes”です。 補足： 春秋とも一年を通じ、わたしの公開ブログサイト「理解社会学の工房」で、並行して作業を進める。就活の関連で出席が低にならない諸君は、当サイトで必要な指示を受け取ることが望ましい。質問等はメールにて、其処で受け賜ります。アドレスは以下の通り： http://workplace-rikaishakaigaku.blogspot.com/ 面倒な人は、グーグルで「理解社会学の工房（+宮村）」を、或いは「宮村重徳+ブログ」で検索するだけで、必要な情報が得られます。		① 人格性の文化と芸術の再定義、社会的人格と内奥の人格に現存在を挟む手法（シェーラー）の見直し、非人格化現象への目線の仕切り直し ② 表現主義と「メランコリーの世界」（レペニース）、芸術作品のリスク ③ ハイデガーの『芸術作品の根源』（Ursprung der Kunstwerke）、メインの講読書 計10回。 ④ 働くモノと（公共性のマスクした）ヒトに於ける、平均性の美学 ⑤ 両面開き（上限と下限、言葉と無）のリスクと見えざるブレイクポイントを、大島淑子、“Zen – anders denken”に探りつつ、「諒解ゲマインシャフト関係」（ヴェーバー）を予想する理解社会的技法を学習する ⑥ 働くモノに応える「自己」造りの経験、「体」で有る（Leib-sein）自分、或いは「身体」を持つ（Körper haben）自己の「環境」的要件を知り、濁りを「澄ます」体験（精神分析での森田療法）について ⑦秋学期の総括、リスク回避とブレイクポイントに王道はない。「理解と解釈」社会学の可能性について	
テキスト、参考文献		評価方法	
Martin Heidegger, “Ursprung des Kunstwerkes” (1935), in “Holzwege” (Vittorio Klostermann)		春学期に準じる。 補足：就活で出席が出来ないときは、ブログの記事にコメントして送れば、レポートと見なすことも可。	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代のドイツ語圏における現代社会の実情と文化に関する基礎的な知識を養い、この地域に対する関心を深めることを目的としています。 講義概要 政治・経済だけではなく、様々な角度からドイツ、そしてオーストリア、スイスを概観し、時事問題、現代事情への理解を深めていきます。 また現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1. ガイダンス 2. ドイツの地形と自然 3. オーストリア、スイスの地形と自然 4. ドイツの政党/ 政治体制 5. オーストリア、スイスの政党/ 政治体制 6. ドイツと EU の関係 7. オーストリア、スイスの EU との関係 8. ドイツの産業構造 9. オーストリア、スイスの産業構造 10. マスメディア 11. 人と文化 ① 芸術 12. 人と文化 ② スポーツ 13. 人と文化 ③ 宗教 14. 人と文化 ④ 食文化 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に学んだことをベースに、ドイツ語圏における現代事情に関する知識をさらに深めることを目的としています。 講義概要 春学期とは異なった角度から現代事情を考察し、理解を深めます。 また春学期に引き続き、現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1. ガイダンス 2. 若者① 教育制度全般 3. 若者② 教育/学術/研究 4. 若者③ 若者文化 5. 家族① 家族形態 6. 家族② 余暇/ ライフスタイル 7. 福祉/ 医療 8. 福祉/ 医療 9. 移民・外国人 10. 移民・外国人 11. 環境① 環境問題 12. 環境② 環境ビジネス 13. 環境③ 気候変動問題におけるドイツの役割 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 a ドイツ史概論 I	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第 1 回： 年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明 第 2 回： 歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第 3 回：「記憶」をめぐる論争(1) ドイツ 第 4 回：「記憶」をめぐる論争(2) オーストリア／日本 第 5 回： ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 第 6 回： ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 第 7 回： ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジアの時代 第 8 回： 19 世紀史(1)：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第 9 回： 19 世紀史(2)：1848 年革命 第 10 回：19 世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第 11 回：現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 第 12 回：現代の開幕(2)：第一次世界大戦（原因） 第 13 回：映像で見る第一次世界大戦 第 14 回：現代の開幕(3)：第一次世界大戦（経過と帰結） 第 15 回：春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2010 年 第 5 版		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 b ドイツ史概論 II	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、ワイマール期からナチスの時代を経て、第二次世界大戦後のドイツ語圏の歴史の流れを概観していく。受講生は、この時代の主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる 20 世紀の激動の時代を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第 1 回： 革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第 2 回： ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第 3 回： ファシズムの誕生(1)：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第 4 回： ファシズムの誕生(2)：ナチス運動の誕生 第 5 回： ファシズム論の変遷(全体主義論、権威主義体制論、近代化論) 第 6 回： 危機の30年代 (1)：民主政治システムの崩壊 第 7 回： 危機の 30 年代(2)：戦間期の国際政治 第 8 回： ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第 9 回： 受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 第10回： 受容と抵抗(2)：反ナチス抵抗運動の諸相 第 11 回：第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 第 12 回：第二次世界大戦(2)：ホロコーストと戦後補償 第 13 回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第 14 回：ドイツ統一と EU 新時代 第 15 回：秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回講義レジュメを配布する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2010 年 第 5 版		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 a ドイツの経済 I	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 政治や経済を知ること、その国の現状を理解することにつながります。 この講義では、ドイツを中心にドイツ語圏の政治・経済に関する基礎的な知識を養い、この地域に関する理解を深めることを目的としています。 講義概要 基本的にはドイツ・ドイツ語圏を中心に講義をすすめますが、日本との比較も行い分かりやすく説明します。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1. ガイダンス 2. 連邦と州 3. EU との関わり 4. 政党 5. 選挙制度 6. 産業構造 7. 現代ドイツ政治・経済史概要（1）旧西ドイツ 8. 現代ドイツ政治・経済史概要（2）旧東ドイツ 9. 現代ドイツ政治・経済史概要（3）ドイツ統一 10. 現代ドイツ政治・経済史概要（4）統一後① 11. 現代ドイツ政治・経済史概要（5）統一後② 12. オーストリアの政治・経済 13. スイスの政治・経済 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 b ドイツの経済 II	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に得た知識を、さらに深めることを目的とします。 講義概要 環境・雇用・福祉などの政策分野を取り上げ、ドイツ語圏の現状を学びます。 日本との比較も織り交ぜながら、問題の本質を見抜き、解決方法なども見出せる知識を養うことも目標とします。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1. ガイダンス 2. ドイツの環境政策（1） 3. ドイツの環境政策（2） 4. ドイツの環境政策（3） 5. オーストリア・スイスの環境政策 6. ドイツの労働・雇用政策（1） 7. ドイツの労働・雇用政策（2） 8. オーストリア・スイスの労働・雇用政策 9. ドイツの社会福祉政策（1） 10. ドイツの社会福祉政策（2） 11. オーストリア・スイスの社会福祉政策 12. 移民・外国人問題（1） 13. 移民・外国人問題（2） 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以前	ドイツの法律Ⅱ	担当者	宗田 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの法律のうち、消費者法について、基本的事項を理解することを目的とする 上記目的の達成のために、ドイツにおける消費者法の基本的事項を図、表、グラフなどを用いて分かり易く解説する。 ドイツの裁判制度についての理解も必要となるので、ドイツの裁判についてのビデオ教材も使用して開設する。 ドイツの法律の理解のために不可欠となるドイツ語の理解のために、毎回ドイツ語の単語の解説も行う。 各自、基本的知識の習得が進んでいるか否かをチェックできるように、しばしば基本的事項のワークシート（チェックリスト）を配布し、各自記入してもらう。 ドイツの最高裁判所判決を解説する。また、ドイツの不正競争防止法の条文を解説する。さらに、消費者団体訴訟制度の解説を行う。		1 導入 2 ドイツの消費者法の概観 3 ドイツ不正競争防止法の条文～立法～ 4 同上～条文の構造～ 5 同上～条文の概要～ 6 ドイツの裁判制度 7 同上 8 ドイツ最高裁判所判決の解説 9 ドイツの地方裁判所判決の解説 10 不正競争防止法上の差止請求権・除去請求権 11 不正競争防止法上の損害賠償請求権 12 消費者団体訴訟制度 13 同上 14 同上 15 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくになし		レポート	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の歴史 a ドイツの歴史 I	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
20 世紀は「戦争の世紀」とも言われ、2 度にわたる世界的規模での戦争を経験しました。その経験を踏まえて人々は 21 世紀には「平和な時代」を期待したはずでした。ところが、相変わらず戦争はなくなっていない。そこで私たちはもう一度 20 世紀の戦争を分析・検討する意義があるのではないのでしょうか。とくに、第一次世界大戦の敗北がヒトラーの台頭を招いたといわれるドイツの歴史では、これら 2 つの戦争は相互に密接な関連を持っています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間（1～2 年間）を割いて 20 世紀以降の歴史を学習しています。 ドイツの歴史の授業は、事項や年号の暗記ではなく、事項や史料の分析に重点がおかれています。そこでこの授業では、できるだけドイツの中学生や高校生の学ぶ歴史の授業を意識して、学生が自分で考え、史料を分析できる力を養うことを目指したいと思います。授業では、映像史料やドイツの教科書等を材料に皆さんで考え、時にはグループで話し合う時間を持ちたいと考えています。		1. 講義の概要 2. 第一次世界大戦 ① 映像で見る第一次世界大戦 3. ② 「戦争の大義」と戦争目的 4. ③ 開戦をめぐる論議 5. 講和条約と戦後処理①ヴェルサイユ条約 6. ②戦争責任と賠償問題 7. ヴァイマル共和国①敗戦と革命・敗戦責任 8. ②共和国と民主主義 9. ③司法と民主主義 10. ヨーロッパのファシズム運動 11. ナチ党の発展と国民の支持①映像で見るナチ党 12. ヒトラー神話：プロパガンダと国民 13. ナチズムに対する受容と抵抗①命令と服従 14. ②抵抗運動 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業時のコメント、課題、期末レポートなどで評価しますが、授業時の参加度なども考慮に入れます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の歴史 b ドイツの歴史 II	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本で歴史教科書問題が議論される際、ドイツの例がよく引き合いに出されます。しかし、多くの場合ドイツの例は非常に単純化されています。歴史教育は、自国の「過去」とどう向き合うかという歴史意識にかかわっており、その時々の政治風土とも大きくかかわっています。ドイツにおいても、自国の「過去」をめぐる意識は紆余曲折を経て現在に至っています。 そこでこの授業では、第二次世界大戦後のドイツが辿った歴史意識の変遷を日本と比較しながら跡付けるとともに、現在のドイツの歴史教育の目標と授業方針がどのようなコンセプトに基づいて設定されたのかを解明していきます。またドイツの中・高生が実際にどのような教科書で歴史を学んでいるのかも紹介したいと思います。この授業が、受講生の皆さんにとって、自分自身の歴史意識や日本の歴史教育について考えてみる契機となることを期待しています。		1. ドイツにおける教育制度① 2. ドイツにおける教育制度② 3. 歴史否定論者の系譜① 4. 歴史否定論者の系譜② 5. 反ユダヤ主義 ①反ユダヤ主義と反セム主義 6. 反ユダヤ主義 ②ナチ体制下のユダヤ人に対する迫害 7. ドイツにおける戦後の歴史意識の変遷（概略）① 8. ドイツにおける戦後の歴史意識の変遷（概略）② 9. 戦後の歴史意識：日独比較① 10. 戦後の歴史意識：日独比較② 11. 戦後の歴史意識：日独比較③ 12. ドイツの教科書と歴史教育① 13. ドイツの教科書と歴史教育② 14. ドイツの教科書と歴史教育③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業時のコメント、課題、期末レポートなどで評価しますが、授業時の参加度なども考慮に入れます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 a ドイツの地誌・民俗 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語圏の地誌を把握することを目的とし、対象地域をライン川流域地域とする。ライン川は、スイス・アルプスに源を発し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が発展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。		1. 導入：ライン川の地理 2. Alpenrhein (1)：アルプスの植生・土地利用、移牧 3. Alpenrhein(2)：リヒテンシュタイン公国 4. Hochrhein(1)：ボーデン湖 5. Hochrhein(2)：原子力発電—スイスのエネルギー政策 6. Hochrhein(3)：スイスの連邦制、合意民主主義 7. Oberrhein(1)：バーゼルー国境を越える都市圏 8. Oberrhein(2)：アルザスの地政学 9. Oberrhein(3)：オーバーライン地溝帯、黒い森 10. Mittlerrhein：ライン峡谷 11. Niederrhein(1)：ボン—ドイツの都市システム 12. Niederrhein(2)：ケルン—景観論争 13. Rheindelta：オランダ—ポルダー・モデル 14. ライン川流域圏 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 b ドイツの地誌・民俗 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、以下の 3 つの視点からドイツ語圏の環境および環境問題について取り扱う。第一にスイスの自然環境を地形・水文・気候といった自然地理学的観点から把握する。第二に、スイス・アルプスの環境問題を、政治地理学的観点から考察する。第三に、ドイツ・フライブルクにおける環境問題を、交通政策、商業政策、住宅政策等と関連させながら、都市計画・地域計画を踏まえて空間的に把握する。		1. 導入：環境とは何か 2. スイスの自然環境(1)：氷河地形 3. スイスの自然環境(2)：水文・気候 4. スイスの環境問題(1)：アルプス縦断鉄道 5. スイスの環境問題(2)：アルペン・イニシアティブ 6. ドイツの環境政策(1)：ドイツの政治・行政システム 7. ドイツの環境政策(2)：持続可能性戦略、エネルギー政策 8. フライブルクと環境政策(1)：フライブルク地誌、地方政治（緑の党） 9. フライブルクと環境政策(2)：廃棄物処理 10. フライブルクと環境政策(3)：交通対策 11. フライブルクと環境政策(4)：エネルギー政策 12. フライブルクと環境政策(5)：まちづくり 13. フライブルクと環境政策(6)：都市計画 14. フライブルクと環境政策(7)：地域計画 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏と EU a ドイツの政治・対外関係 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU に関する基礎的な知識を習得したうえで、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。		1. 導入：ヨーロッパとは何か 2. EU の制度 3. EU の機能 4. EU の政策 5. EU の形成・発展過程(1) 6. EU の形成・発展過程(2) 7. EU の形成・発展過程(3) 8. EU の東方拡大(1) 9. EU の東方拡大(2) 10. 東方拡大と農業政策(1) 11. 東方拡大と農業政策(2) 12. EU と地域(1) 13. EU と地域(2) 14. EU と地域(3) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏と EU b ドイツの政治・対外関係 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツの都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて、具体的な事例をもとに明らかにしていく。		1. 導入：ドイツの都市 2. ドイツ再統一（1）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（2）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（3）：東ドイツの地方都市 5. ドイツ再統一（4）：冷戦後の旧東ドイツ都市 6. ドイツ再統一（5）：プレントラウアー・ベルク 7. ドイツ再統一（6）：ポツダム広場 8. ヨーロッパ統合（1）：EU 9. ヨーロッパ統合（2）：統合と地域間格差 10. ヨーロッパ統合（3）：EU 地域政策 11. ヨーロッパ統合（4）：ユーロリージョン 12. 地方分権（1）：多極分散型国家 13. 地方分権（2）：空間整備政策 14. 地方分権（3）：都市計画 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトの基に教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書を皆さんとともに読んでみたいと思います。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、史料も多くなってきます。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、歴史教育への新しい視点が提供されることでしょう。 ドイツの歴史教科書は、種類も多く構成もさまざまです。できるだけいろいろな教科書を紹介したいと思っています。 授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加者は必ず第1回目の授業に出てください。		1. ガイダンス 2. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 3. 日本における教科書問題 4～15 講読と解説、教科書の課題に関する討論など	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布。		授業での参加度と、期末試験の成績による。 6回以上欠席した場合は、試験を受けられません。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトの基に教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書を皆さんとともに読んでみたいと思います。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、史料も多くなってきます。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、歴史教育への新しい視点が提供されることでしょう。 ドイツの歴史教科書は、種類も多く構成もさまざまです。できるだけいろいろな教科書を紹介したいと思っています。 授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加者は必ず第1回目の授業に出てください。		1. ガイダンス 2. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 3. 日本における教科書問題 4～15 講読と解説、教科書の課題に関する討論など	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布。		授業での参加度と、定期試験の成績による。 6回以上欠席した場合は、試験を受けられません。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、 1. 文法知識の徹底と強化 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成 を図ります。 すなわち、学年が上がるうちに「自分はいつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「(たとえば)就活で心身ともに疲弊してしまい、そもそもこのところドイツ語に接していない。よって、改めてきちんと頭で納得できる形で文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。		この講義は 3・4 年生の混在クラスであることから、例年そもそも所属学年に起因する知識量に差異が見られます。加えて個々人のそれまでの学習態度に起因して、その差異がさらに増幅してスタートラインに着くこととなります。そのような現況のもとでは、事前に機械的な計画を提示することは却って画餅に帰することになりかねません。 大事なことは「(見せかけの) 形式を整える。」ことにあるのではなく、「中身を充実させる。」ことにあるはずです。私としては、まずは第 1 回講義時に「クラスの雰囲気・気配を嗅ぎとって」、講義時間内に方針を立案し、皆さんに口頭で提示します。つまり、「相手を見て最良の戦略を決める。」ということです（↓の秋学期の「授業計画」に続く）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントにて配布します。第 1 回の講義時にサンプルを配布するので、実見の上、受講するか否かを決めて下さい。 また、「独和辞典」および文法の資料（手持ちの教科書・参考書等）を毎回必ず持参のこと。		出席重視。また、学期末にペーパーテストを実施。なお正当な理由を報告しないまま、連続して 3 回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。特に就活従事者は、「黙って欠席を続けていて、連休明け頃にフワ〜とやって来る。」といった仕儀に陥らないこと（試験は出席していないと点が取れない問題になっています）。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は冒頭に提示した「講義目的」の 2. に移行させます。 というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。本講義ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却し、自然な日本語への翻訳力の涵養（かんよう）を図ります。		以下、↑の方針を敷衍すべく、中身に具体性を持たせましょう。 春学期においては冒頭の「講義目的」の 1. に重きを置きます。したがって文法中心の内容となるため、いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態、法の変換等を反復的に演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなります。 秋学期では左欄に述べたように、「講義目的」の 2. に重きを置くつもりですが、新規履修者と継続履修者の比率や春学期履修者のペーパーテストの成績を踏まえ、適切な進・深度を設定します。（早い話が、やはり顔ぶれとそのレベルに応じて柔軟に対応するということです。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
19 世紀のドイツは海外移民を送り出す国であったが、今日のドイツは移民の統合に悩む国である。この転換にとって重要だったのは両大戦期、とりわけナチの時代と第二次世界大戦だった。 ナチズム体制下のドイツの国外侵略と第二次世界大戦は、さまざまなディアスポラ(移民、亡命、難民などを含めて広く人間の移動一般をさす)を発生させた。今回は第二次世界大戦をさまざまな移動という観点から見て行くことになるが、前線の戦闘や銃後の爆撃にもまして、これが戦争の本質であったことを理解していただけたと思う。		1 ガイダンス 2 ワイマール共和国の東方ユダヤ人 3 ナチ時代の亡命者 4 第 2 次世界大戦と難民の発生 5 独ソ戦の開始と新たな難民の発生 6 強制労働の開始 7 独ソ戦と強制労働の拡大 8 強制労働と戦争経済 9 「民族ドイツ人」の帰還運動 10 ポーランド人の追放 11 ユダヤ人の強制移送 12 ユダヤ人の虐殺 13 まとめと結論 14 予備日 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus J. Bade/Jochen Oltmer, <i>Normalfall Migration</i> (Bonn, 2004), S.39-51(教材のコピーを用意します) 石田勇治『過去の克服』(白水社、2002) 芝 健介『ホロコースト』中公新書(2008)		学期末の筆記試験に平常点を加味して評価します	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツは血統主義の原則に立つとされる。われわれはさまざまなドイツの政治家が繰り返し「ドイツは移民国家ではない」という言葉を発するのを聞かされた。 しかし、これはもはや過去のものであり、現代のドイツにはあてはまらない。1999 年に従来の血統主義を放棄し、生地主義を加味した新たな国籍法を成立させた赤緑政権は、2004 年にはこの国籍法を含む移民法を成立させ、ドイツが「移民国家」であることを天下に公言した。 もちろん、この移民法は、稀に見る難産の産物であり、社会民主党とキリスト教社会同盟との妥協を反映している。また成立時の国際情勢によるさまざまな制約を受けた限界のあるものである。にもかかわらず、この転換が覆されることはもはやないと思われる。メルケル首相のもとでも統合サミットが開かれ、国民統合計画が策定され、ショイブレ内相の招集したイスラム会議では宗教の授業にイスラムを取り上げることが決められた。 この決定的な転換点となった移民法の成立に至る過程をたどることによって、移民国家としてのドイツの今後の方向を探りたい。		1 ガイダンス 2 外国人法の改正 3 国籍法の改正 4 グリーンカードの導入 5 移民委員会の設置 6 移民法の成立過程 7 高齢化社会と移民 8 高齢化社会と移民 9 移民政策と統合政策 10 移民政策と統合政策 11 治安と移民政策 12 不法移民の規制 13 まとめと結論 14 予備日 15 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus J. Bade/Jochen Oltmer, <i>Normalfall Migration</i> (Bonn, 2004), 127-140(教材のコピーを用意します) 近藤潤三『移民国としてのドイツ』(木鐸社、2007)		学期末の筆記試験に平常点を加味して評価します	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Soziale Bewegungen und Utopien In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit sozialen Bewegungen, die eine grundlegende Veränderung des politischen Systems und der gesellschaftlichen Ordnung anstreben. Wir werden Texte lesen, in denen Utopien einer besseren Gesellschaft entworfen und der Übergang zur neuen Gesellschaft dargestellt wird. Darüber hinaus werden wir uns mit aktuellen politischen Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz beschäftigen.		1. Einführung 2. Rousseau 3. Utopie-Begriff 4. Anarchismus 5. Anarchismus 6. Aktuelle politische Themen 7. bolo'bolo 8. bolo'bolo 9. bolo'bolo 10. Aktuelle politische Themen 11. "Der kommende Aufstand" 12. "Der kommende Aufstand" 13. "Der kommende Aufstand" 14. "Der kommende Aufstand" 15. Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden den Studierenden in Kopie zur Verfügung gestellt.		Die Studierenden müssen einen Report schreiben.	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Soziale Bewegungen und Utopien In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit sozialen Bewegungen, die eine grundlegende Veränderung des politischen Systems und der gesellschaftlichen Ordnung anstreben. Wir werden Texte lesen, in denen Utopien einer besseren Gesellschaft entworfen und der Übergang zur neuen Gesellschaft dargestellt wird. Darüber hinaus werden wir uns mit aktuellen politischen Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz beschäftigen.		1. Einführung 2. Geschichte von Utopien und Dystopien 3. Utopie und Pädagogik 4. Utopie und Pädagogik 5. Utopie und Pädagogik 6. Aktuelle politische Themen 7. Utopie und Cyberspace 8. Utopie und Cyberspace 9. Utopie und Cyberspace 10. Aktuelle politische Themen 11. Neoliberale Utopien 12. Neoliberale Utopien 13. Neoliberale Utopien 14. Aktuelle politische Themen 15. Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden den Studierenden in Kopie zur Verfügung gestellt.		Die Studierenden müssen einen Report schreiben.	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。		①、テキスト配布，内容の簡単な説明 ②、講読 ③、講読 ④、講読 ⑤、講読 ⑥、講読 ⑦、講読 ⑧、講読，テスト ⑨、講読 ⑩、講読 ⑪、講読 ⑫、講読 ⑬、講読 ⑭、講読 ⑮、講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ／オーストリアの歴史に関するテキストを読み、それぞれのテーマや時代に関する理解を深めていく ドイツ語を読み内容を把握することを目指す。		① テキスト配布，内容の簡単な説明 ② 講読 ③ 講読 ④ 講読 ⑤ 講読 ⑥ 講読 ⑦ 講読 ⑧ 講読，テスト ⑨ 講読 ⑩ 講読 ⑪ 講読 ⑫ 講読 ⑬ 講読 ⑭ 講読 ⑮ 講読，テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントにより配布 参考文献は授業で紹介		テスト，レポート，出席	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） a ドイツ語講読（歴史）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Terrorismus und politisch motivierte Gewalt in Deutschland In diesem Kurs werden wir uns mit Terrorismus und politisch motivierter Gewalt in der Bundesrepublik Deutschland beschäftigen. Wir werden Texte über die Geschichte von Terrorgruppen lesen und uns damit beschäftigen, wie sie die Anwendung von Gewalt rechtfertigen. Dazu werden wir zwei Filme sehen, die sich mit dem Thema Terrorismus auseinandersetzen.		1. Einführung 2. Was ist Terrorismus? 3. Rote Armee Fraktion (RAF) - Geschichte, 1. Generation 4. RAF - Geschichte, 1. Generation 5. RAF - Geschichte, 2. Generation 6. RAF - Geschichte, 3. Generation 7. Film: Der Baader-Meinhof-Komplex 8. Film: Der Baader-Meinhof-Komplex 9. Film: Der Baader-Meinhof-Komplex 10. Bewegung 2. Juni – Geschichte 11. Bewegung 2. Juni – Flugblätter 12. Bewegung 2. Juni – Interviews 13. Rote Zellen – Geschichte 14. Rote Zellen – Texte 15. Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden den Studierenden in Kopie verteilt		Report	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） b ドイツ語講読（歴史）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Terrorismus und politisch motivierte Gewalt in Deutschland In diesem Kurs werden wir uns mit Terrorismus und politisch motivierter Gewalt in der Bundesrepublik Deutschland beschäftigen. Wir werden Texte über die Geschichte von Terrorgruppen lesen und uns damit beschäftigen, wie sie die Anwendung von Gewalt rechtfertigen. Dazu werden wir zwei Filme sehen, die sich mit dem Thema Terrorismus auseinandersetzen.		1. Einführung 2. Gewaltbegriff 3. Autonome 4. Autonome 5. Politisch motivierte Gewalt heute - Linksextremismus 6. Film: Die fetten Jahre sind vorbei 7. Film: Die fetten Jahre sind vorbei 8. Film: Die fetten Jahre sind vorbei 9. Rechtsextreme Gewalt in der Geschichte der BRD 10. Politisch motivierte Gewalt heute - Rechtsextreme Kameradschaften 11. Politisch motivierte Gewalt heute - Islamismus in Deutschland 12. Politisch motivierte Gewalt heute - Islamismus in Deutschland 13. Terrorismus und staatliche Überwachung 14. Terrorismus und staatliche Überwachung 15. Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte werden den Studierenden in Kopie verteilt		Report	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
ヘルムート・シュミット(旧西ドイツの元連邦首相)の論文『公共のモラルを求めて』(Auf der Suche nach einer öffentlichen Moral: Deutschland vor dem neuen Jahrhundert 1998)の原典講読を通じて、現代の経済社会の構造改革のための公共のモラルのあり方を現実主義的な立場から考察して行きたい。これにより現代社会のかかえる問題点を読み解く鍵を手に入れるのと同時にドイツ語の読解力を飛躍的に向上させることを目標とする。 （極めて明晰な文章なので、文法の基礎的な知識と辞書を引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。予習を忘れずに毎回出席をめざして下さい。）		1 回目 ガイダンス 2 回目～1 5 回目 テキスト研究(原典講読)	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況(3 分の 2 以上出席が必要)と平素の学習態度(特に予習の有無)を加味しつつ、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
ヘルムート・シュミット(旧西ドイツの元連邦首相)の論文『公共のモラルを求めて』(Auf der Suche nach einer öffentlichen Moral: Deutschland vor dem neuen Jahrhundert 1998)の原典講読を通じて、現代の経済社会の構造改革のための公共のモラルのあり方を現実主義的な立場から考察して行きたい。これにより現代社会のかかえる問題点を読み解く鍵を手に入れるのと同時にドイツ語の読解力を飛躍的に向上させることを目標とする。 （極めて明晰な文章なので、文法の基礎的な知識と辞書を引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。予習を忘れずに毎回出席をめざして下さい。）		1 回目 ガイダンス 2 回目～1 5 回目 テキスト研究(原典講読)	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況(3 分の 2 以上出席が必要)と平素の学習態度(特に予習の有無)を加味しつつ、筆記試験の成績で評価する。100 点満点中 10 点を出席点とする。	

08 年度以前	卒業論文	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
4 年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにする。 1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要である。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学ぶ。 2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素である。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指す。 3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの仕上げを目指す。 *注意* この授業は、主に論文のリテラシーや研究調査の進め方に関する授業を行う。論文の専門的な内容については、あくまでも指導教員との綿密な話し合いや教員からの指導が不可欠である。		詳しくは第 1 回授業時に説明する。 第 1 回 導入 第 2 回 卒論の基本的なリテラシー 第 3 回 論文題目提出のための準備 1 第 4 回 論文題目提出のための準備 2 第 5 回 文献目録の作成 1 第 6 回 文献目録の作成 2 第 7 回 文献目録の作成 3 第 8 回 卒論作成のためのストラテジー 1 第 9 回 卒論作成のためのストラテジー 2 第 10 回 卒論作成のためのストラテジー 3 第 11 回 卒論作成のためのストラテジー 4 第 12～15 回 中間報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示する。		卒業論文の評価と連動して評価される。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮される。	

08 年度以前	卒業論文	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期を参照。 秋学期では、論文の構成と仕上げ、提出に向けての準備、口頭試問が中心となる。		第 1 回 夏休みの成果報告 第 2 回 論文のストラテジー 1 第 3 回 論文のストラテジー 2 第 4 回 論文のストラテジー 3 第 5 回 論文のストラテジー 4 第 6 回 論文の日本語 1 第 7 回 論文の日本語 2 第 8 回 論文の日本語 3 第 9 回 要約のためのドイツ語 1 第 10 回 要約のためのドイツ語 2 第 11 回 要約のためのドイツ語 3 第 12 回 要約のためのドイツ語 4 第 13～15 回 口頭試問	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示する。		春学期を参照。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09 年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。 近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。		1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。I T時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。 宿泊産業では全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタリティー産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義の概要 2. 旅行業とは①旅行業の機能・役割 3. 旅行業とは②旅行市場と旅行業の現状 4. 旅行業の歴史 5. 旅行業の商品と形態 6. 旅行業と消費者保護 7. 旅行業界の現状と課題・展望 8. ホテルとは 9. ホテルの分類 10. 欧米におけるホテルの歴史 11. 日本におけるホテルの歴史 12. ホテル業の動向 13. ホテルの組織と経営特性 14. ホテル業界のホスピタリティー 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09 年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。 文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げ上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。 ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この3つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらう。 新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。 講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。		1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（1）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（2）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（3）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（4）論説・社説とは 9. 新聞記事（5）編集のプロセス 10. 新聞記事（6）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（1）題材 12. ルポルタージュ（2）取材 13. ルポルタージュ（3）発表 14. ルポルタージュ（4）評価 15. メディアの未来を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		授業における課題ルポルタージュの成果（70％）と出席・質疑応答などの実績（30％）で評価する。	

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。 講義概要 ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、EUの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、その先を考察する。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 日本の空で起きていること、航空産業の枠組み 3. 民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 4. 米のオープンスカイ戦略とLCC、CRS、H&S 5. EUの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier” 6. ディベイト；「日中韓、北東アジア共通航空市場」 7. グローバル・アライアンス（1）誕生の背景、動向 8. グローバル・アライアンス（2）増収、世界戦略 9. 日本の航空のこれから 10. 航空のサービスとホスピタリティ 11. 日本から発信するホスピタリティ 12. 航空と観光 13. 航空とCSR，地球環境 14. 北東アジア共通航空市場を考える 15. 各人の到達点、全体講義のまとめ * 専門家の講話も検討する * 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ANA総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、ANA総研『エアライン・オペレーション入門』（ぎょうせい）他		期末試験（70％）に、出席状況、授業での発表他参画姿勢など総合的に評価する	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』		1. 講義の概要 2. 開発＝近代化と文化変容 (ビデオ『ラダック：懐かしい未来』※予定) 3. 開発とは何か、貧困とは何か 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. コミュニティと外部を結ぶ人材 10. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 文化変容とグローバル公共空間 14. 内発的な発展論 (ビデオ「回生：鶴見和子の遺言」※予定) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的な発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。 【講義概要】 テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客であるStuart Hall が、イギリスのOpen University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋(pp. 153-222)を用いる。 テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。		1. イントロダクション 2. セクション 2 3. 続き 4. セクション 3 5. 続き 6. セクション 4 7. 続き 8. 続き 9. ディスカッション 10. セクション 5 11. 続き 12. 続き 13. セクション 6 14. 続き 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のほか、適宜、参考文献を紹介する。		学期末に提出するレポートによる。	

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナルリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. 食育と学校 10. コーヒーのグローバルヒストリー 11. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 12. スローフード、産直提携、community-supported agriculture、地産地消 13. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムを作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		- 趣旨説明 - グローバリゼーションの民族誌 1 - グローバリゼーションの民族誌 2 - 観光の誕生 - ビデオ上映 - 表象の政治学—情報資本主義と観光 - メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 - 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 - 文化装置としてのホテル - 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 - セックス・ツーリズム—タイの事例 - 少数民族と観光—タイの事例 - 文化の著作権と「サンタクロース民族」 - 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 - まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義の概要 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光 4. 観光旅行の諸類型・疑似体験としての観光旅行 5. 観光を作り出す仕掛け・イメージの形成とメディア 6. 文化現象としての観光文化の商品化と観光文化 7. 観光の文化的インパクト 8. 観光行動と文化の真正性 9. 観光と伝統の発明 10. 観光による楽園の創造 11. 模型文化と観光芸術 ① 12. 模型文化と観光芸術 ② 13. 新たな観光へ① 14. 新たな観光へ② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果に基づいて評価する。	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。		1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望① 14. イベント・コンベンションの課題と展望② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、その中で営まれた「上から目線」のツーリズム政策の問題を検証し、あるべきツーリズム政策の姿、方向を身近な距離で捉える。 講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド観光政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探究する。 ・上記コンテキストの中で「若者の旅離れ」や「旅育」など現代的な風潮、課題についても考察する。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. ツーリズムの力、政策の位置づけ 3. 日本の観光政策の史的考察 4. 観光の経済力、規模、影響力 5. アウトバウンド・ツーリズム政策の筋を考える 6. インバウンド・ツーリズム政策の検証、国際比較 7. ディスカッション；「若者の旅離れ」、「旅育」 8. 貿易立国から観光立国への道 9. 日本のツーリズム政策の課題（1）景観、風土 10. 日本のツーリズム政策の課題（2）リゾート開発等 11. エコロジーを考える 12. 若者の旅離れと、上から目線の観光政策 13. 観光立国を考える 14. ディスカッション；「あなたが考える観光立国とは」 15. 夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する		期末試験（70％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム政策が国レベルの視点だとすると、ツーリズム・マネジメントは産業レベルでの政策と捉えられるだろう。景観破壊や地域破壊に繋がる商業主義から脱し、CSR、自然や景観（風景）を守ること視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。 講義概要 ・風景、地域環境、自然の破壊に繋がる商業第一主義のツーリズム運営を検証し、風景や自然と共に発展するツーリズムを捉える中で、リゾート法のもたらした功罪を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅行離れの実体、これからを考える。 ・「和」の日本旅館の衰退の実態を掴み、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」に目を向けこれからのツーリズム・マネジメントを捉える。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 観光産業の構造と観光の要素 3. 観光の経済波及効果 4. 観光産業の規模と課題 5. 縮小する旅行業の課題 6. 日本旅館の衰退とアート経営が生む奇跡の旅館 7. ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」 8. 航空産業とツーリズム 9. ホスピタリティを導入するツーリズム 10. ツーリズムから見える日本の課題 11. 景観、自然を守るツーリズム vs リゾート開発 12. ディスカッション；「エコツーリズムを考える」（予定） 13. 着地型観光とツーリズム・マネジメント 14. 企業の社会的責任とツーリズム・マネジメント 15. 夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する		期末試験（70％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。 講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、また、代表的な世界遺産についても学習します。 「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。		1. 講義の概要 2. 多様化するメディア(1) 3. 多様化するメディア(2) 4. ツーリズムの新たな動向(1) 5. ツーリズムの新たな動向(2) 6. 進化するマーケティング(1) 7. 進化するマーケティング(2) 8. 観光誘致策(1) 9. 観光誘致策(2) 10. メディア販売(1) 11. メディア販売(2) 12. 企業広報(1) 13. 企業広報(2) 14. 旅行業法の枠組み 15. 世界遺産セレクト 10 (日次の順序は前後します)	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（50％）＋平常授業における課題レポート等（50％）＝100 点満点	

09 年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでの NGO 活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域の発展を理解するための視座 3. 内発的発展と外来型開発 4. 組織・制度化 (institutionalization) 5. 住民参加(participation)の意義と多義性 6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 7. 内発的発展におけるキーパーソン 8. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグランを例として 9. コミュニティマネー (ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』) 10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでの NGO 援助を事例として 11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし 12. 多文化共生と地域づくり 13. まちづくりと観光 (ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』) 14. 大学とまちづくり 15. まとめ：まちづくりは人づくり	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。 〔講義概要〕 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。		第1回：イントロダクション 第2回：パフォーマンスとは何か 第3回：パフォーマンス研究とは何か 第4回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5回：宗教祭祀の比較研究 第6回：世俗儀礼の比較研究 第7回：パフォーマンスと民族誌 第8回：パフォーマンスと遊戯 第9回：国際的パフォーマンス 第10回：アイデンティティとパフォーマンス 第11回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13回：パフォーマンスとパフォーマンス・メディア 第14回：パフォーマンスと現代思想 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献：Richard Schechner, Performance Studies: An Introduction, New York: Routledge, 2006. 高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005ほか。		学期中の小レポートと学期末レポートの合計	

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映(ジャマイカの観光開発) - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米イヌイットの事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として - ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

2011年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学用)

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~14. EEC の定着期 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11~12. 加盟国と EU 13~14. EU 域外との関係 15. EU の現在の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

03 年度以降	総合講座（楽しい文学とのつきあい方）	担当者	コーディネーター 工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
この総合講座では、文学をパフォーマンスとして捉えることによって、堅苦しくなく接するための様々な方法を受講者のみなさんに提供したいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が文学についてそれぞれ個性的なアプローチで、既成の枠に捉えられない「楽しい」お話をします。担当者の専門によって、音楽や舞台芸術、文学の解釈や実際の応用まで変化に富みながらも深い味わいのある講義内容となる予定です。この講座を通じて受講者のみなさんが、文学の楽しみ方は自由で開かれたものであることを理解し、そして文学に関して各々が新しい発見をすることができるよう願っています。 注意事項：「楽しみの中にも礼儀あり」。授業中は、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します		1. 工藤達也(本学ドイツ語学科教授)最初に 2. 児島一男（本学英語学科教授）現代英語圏の演劇（ドラマリーディング） 3. 原成吉（本学英語学科教授）英詩の伝統とロック・ミュージック——Bob Dylan を読む 4. 片山亜紀（本学英語学科准教授）『不思議の国のアリス』のその後 5. 若森栄樹(本学フランス語学科教授) フランス文学入門——アルペール・カミュを中心に 6. 谷口亜沙子(本学フランス語学科専任講師)ダダ 7. 田中善英(本学フランス語学科教授)『星の王子さま』からのメッセージ 8. 工藤達也 文学と声 9. 未定(外部講師依頼中) 10. 山本淳(本学ドイツ語学科教授)ブレヒト『三文オペラ』の楽しみ方 11. 柿沼義孝(本学ドイツ語学科教授) 能と文学 12. 矢羽々崇(本学ドイツ語学科教授) 楽しいパロディ——メルヒェン・パロディを例に—— 13. 上野直子（本学英語学科教授）I will be there for you 14. 前沢浩子（本学英語学科准教授）Shakespeare と新しいメディア 15. 工藤達也 講義のまとめと試験対策など	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03 年度以降	総合講座（都市を読み解く）	担当者	コーディネーター 飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、言語、歴史、文化、建築、都市計画、社会、政治、経済など、多様な視点から都市を読み解き、都市の諸相を把握することを目的とする。本講座を通じて、受講者は各都市の個別事象を知るだけではなく、多様なディシプリン、分析視点、問題設定等についても理解し、今後の学習に役立ててほしい。		1. 飯嶋曜子(ドイツ語学科)：導入、都市論の可能性 2. 須永和博（交流文化学科）：都市人類学への招待 — 東京のなかの異界 3. 金子芳樹（英語学科）：先進都市シンガポールの光と影 4. 佐野康子（英語学科）：「新しい花」の咲く都市 — エチオピアの首都アジスアベバ 5. 日野克美（交流文化学科）：モンテリオールの街路名 6. 児島一男（英語学科）：Ulysses (by James Joyce)を基にした Dublin Walking Tour Guide 7. 青山愛香（ドイツ語学科）：ニュルンベルクと 15 世紀の出版革命 8. 矢羽々崇（ドイツ語学科）：退廃と健全 両面の街ベルリン 9. 岡村りら（ドイツ語学科）：ベルリン— 壁崩壊前と後 10. 前沢浩子（英語学科）：ロンドン — 近代都市の変貌 11. 上野直子（英語学科）：もうひとつのロンドン 12. 江花輝昭（フランス語学科）：パリのグランド・デザイン 13. 鈴木隆（フランス語学科）：パリ — 都市の広がりと景観 14. 飯嶋曜子（ドイツ語学科）：千葉県佐原 — 都市の景観保全とまちづくり 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて各担当講師が提示する。		出席状況，レポートもしくは試験により評価	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 1 15 授業のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に最適な内容と考える。 【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は 1 人 1 台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを収集したり、その分析結果をレポートにまとめたりすることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。		1. 【ガイダンス】 2. 言語の基本（1）：品詞 3. 言語の基本（2）：形態素、単語、句、節 4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13. 最終レポート準備（1） 14. 最終レポート準備（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。 【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。 授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、学生の作業、演習、発表が中心になる。		1. 【ガイダンス】 2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要 3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7. データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8. データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9. 学習者コーパスの加工：tagging（1） 10. 学習者コーパスの加工：tagging（2） 11. 分析（1） 12. 分析（2） 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 データベースの活用 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojocho/) を参照すること。		学期末試験および 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー 11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojocho/) を参照すること。		学期末レポートおよび 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む)</u>を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進じます。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

03 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス ドイツ語学科

2011年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	